

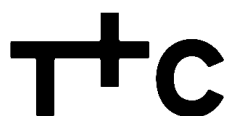
1級自動車整備科

- ・履修科目表
- ・卒業・進級要件
- ・履修判定試験および評価方法
- ・シラバス（授業概要）

ディプロマポリシー

自動車業界の主軸として活躍できる技術者

<https://car.ttc.ac.jp/shinagawa/departments/automotive-service-and-maintenance-1st-class/diploma-policy/#diploma-policy-shinagawa-first>



学校法人 小山学園

専門学校 東京工科自動車大学校 品川校

・成績評価及び卒業要件

<履修評価（合否判定）の方法>

①科目の合否

本校では、科目の合否は原則的に履修判定試験のみでおこない、60%の理解度をもって合格とする。
履修判定試験は「筆記試験」・「実習評価」でおこなわれるが、作品制作やレポートなど普段の授業の中でおこなわれる提出物の評価を履修判定試験内で評価することがある。
その場合の評価の方法については、講義概要（コマシラバス）の中に明記される。

②未受験者・試験不合格者の処置

A: 公認欠席または疾病により診断書が提出された場合、履修判定試験を受けることが出来なかった者に対して、審査により認められた場合のみ追試験を受けることができます。その場合の成績評価点は得点の90%、67点～60点は一律60点とします。

B: 履修判定試験の成績が60点未満の場合および上記Aに該当する理由がなく履修判定試験を受験しなかった場合は未履修となります。ただし、必修科目全体の年間出席率が80%以上の者については、書類審査で認められた者に限り追試験を実施することがあります。その場合成績評価は一律60点とします。

③履修判定試験の運営

試験会場では、試験監督官の指示に従って行動する。

試験開始後20分以上経過した場合には、その試験の受験資格を失う。

試験中に監督官から不正行為を指摘された場合には直ちに教室から退室する。この場合は当該科目を不合格とする。

<成績評価およびその客観的な指標について>

履修判定試験の結果が100点～80点のものをA（合格）、79点～70点のものをB（合格）、69点～60点のものをC（合格）、59点以下のものをD（不合格）として成績評価とする。

このA～Dの評価を、A＝3点、B＝2点、C＝1点、D＝0点として各科目の成績を点数化のうえ合計し、総科目数で割り指標数値を算出して各科の成績分布の指標とする。

<進級について>

①進級

進級に関する基準に関しては、下記条件を基に、進級判定会議において総合的に判定されます。

・各学年の必修科目をすべて履修し、年間総出席率90%以上であること。

なお、1級4年制課程における3学年の履修については、二級ガソリン自動車整備士および二級ジーゼル自動車整備士両方の登録試験に合格していることが科目履修の条件となります。

②留年

上記条件を満たさない場合は、留年となる。

③進級・留年の決定

進級・留年の最終判断は、進級公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

<卒業について>

①卒業

卒業に関する基準に関しては下記条件を基に、卒業（修了）判定会議において総合的に判定されます。

・卒業（修了）条件は、修業年限間に定めた必修科目のすべて履修し、各課程の基準時限以上を出席すること。

◆新カリキュラム（1年生）

授業分類	卒業基準時限数	
	2級課程(1級課程1,2年)	1級課程(3,4年)
講義	319時限(コマ)以上	156時限(コマ)以上
実習	636時限(コマ)以上	259時限(コマ)以上
体験実習		78時限(コマ)以上
評価実習		306時限(コマ)以上

◆旧カリキュラム（2年生以上）

授業分類	卒業基準時限数	
	2級課程(1級課程1,2年)	1級課程(3,4年)
講義	336時限(コマ)以上	157時限(コマ)以上
実習	669時限(コマ)以上	260時限(コマ)以上
体験実習		112時限(コマ)以上
評価実習		306時限(コマ)以上

②留年

上記条件を満たさない場合は、留年となる。

③卒業・留年の決定

卒業・留年の最終判断は、卒業公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

履修科目履修時間表 1級自動車整備科 (実務経験のある教員が担当する科目)
2025年度入学生用 新カリキュラム(1年生対象)
東京工科大学品川校

作成日 2024/9/12
変更日 2024/10/22

※「1履修時間」は実時間で45分とする。また、
「1授業時間(コマ)」は2履修時間(実時間で90分)とする。
※履修時間を単位数で換算する場合は、講義科目にあっては15履修時間、実習科目にあっては30履修時間をそれぞれ1単位として換算する。

分類	番号	必修 選択	教育科目名	単 位	1年次					2年次					3年次					4年次					実務 経験 ※1	備考
					1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期		
講義科目 一般教養	01	◎	フレッシュマン研修		16																					
	02	◎	グローバル・コミュニケーションⅠ			16																				
	03	◎	グローバル・コミュニケーションⅡ				16																			
	04	△	海外研修	1											32											
	05	◎	グローバル・コミュニケーションⅢ	1						16																
	06	◎	グローバル・コミュニケーションⅣ	1							16															
	07																									
基礎 講義	01	◎	ITリテラシー	2	34																					
	02	◎	自動車工学Ⅰ	2	34																					
	03	◎	自動車工学Ⅱ	2	34																					
	04	◎	エンジンⅠ	2		34																				
	05	◎	シフトⅠ	2		34																				
	06	◎	自動車工学Ⅲ	2		34																				
	07	◎	シフトⅡ	2		34																				
	08	◎	エンジンⅡ	2		34																				
	09	◎	シフトⅢ	2		34																				
	10	◎	エンジンⅢ	2			34																			
	11	◎	自動車工学Ⅳ	2			34																			
	12	◎	自動車構造実習	2			34																			
	13	◎	環境保全とリサイクル	2										30												
	14	◎	情報リテラシー応用Ⅰ	2										30												
	15	◎	プレゼンテーション技法Ⅰ	2										30												
	16	◎	自動車関係法規Ⅰ(検査法規)	2													16									
	17	◎	情報リテラシー応用Ⅱ	2										30												
	18	◎	自動車の新技術Ⅰ	2													30									
	19	◎	グローバル・コミュニケーションⅤ	1											16											
	20	◎	エンジン・電子制御装置整備Ⅰ	4											60											
	21	◎	自動車関係法規Ⅱ(整備法規)	2													16									
	22	◎	職業訓練の理論と実務	2													30									
	23	◎	グローバル・コミュニケーションⅥ	1											16											
	24	◎	情報リテラシー応用Ⅲ	2											30											
	25	◎	プレゼンテーション技法Ⅱ	2													30									
	26	◎	グローバル・コミュニケーションⅦ	1													16									
	27	◎	安全管理	4													60									
	28																									
応用 講義	01	◎	環境と新技術	2						34																
	02	◎	電気・電子装置	2							34															
	03	◎	シフトⅣ	2								34														
	04	◎	法令Ⅰ	2								34														
	05	◎	二輪自動車構造	2									34													
	06	◎	自動車工学Ⅴ	2										34												
	07	◎	ガソリン自動車構造	2										34												
	08	◎	ディーゼル自動車構造	2										34												
	09	◎	法令Ⅱ	2											34											
	10	◎	ビジネス・アビリティⅠ	2														30								
	11	◎	ビジネス・アビリティⅡ	2															30							
	12																									
実習科目 実習	01	◎	自動車整備実習	1	34																			○		
	02	◎	エンジン実習Ⅰ	1	34																			○		
	03	◎	電気装置実習Ⅰ	1	34																			○		
	04	◎	シフト実習Ⅰ	2		64																		○		
	05	◎	エンジン実習Ⅱ	1		34																		○		
	06	◎	メカトロニクス実習Ⅰ	1		34																		○		
	07	◎	電気装置実習Ⅱ	2		64																		○		
	08	◎	二輪車実習	2		64																		○		
	09	◎	電気装置実習Ⅲ	2		64																		○		
	10	◎	アーク溶接作業	2		24																		○		
	11	◎	エンジン実習Ⅲ	1		34																		○		
	12	◎	シフト実習Ⅱ	2		64																		○		
	13	◎	電気自動車&AO整備	1		34																		○		
	14	◎	グラウンド特別教育	1		16																		○		
	15	◎	エンジン実習Ⅳ	2		64																		○		
	16	◎	電気・電子回路実習	2										60												
	17	△	応用セミナーⅠ	1											40											
	18	◎	シフト電子制御装置整備Ⅰ	2											60											
	19	◎	グローバル・メンテナンス技術Ⅰ	1											40											
	20	◎	エンジン・電子制御装置整備Ⅱ	2											60											
	21	◎	シフト・電子制御装置整備Ⅱ	2											30											
	22	◎	自動車の新技術Ⅱ	1											30											
	23	◎	グローバル・メンテナンス技術Ⅱ	1											40											
	24	◎	エンジン・電子制御装置整備Ⅲ	2											60											
	25	◎	シフト電子制御装置整備Ⅲ	2											36											
	26	△	応用セミナーⅡ	1											40											
	27	◎	グローバル・メンテナンス技術Ⅲ	1											40											
	28	◎	エンジン電子制御装置整備Ⅳ	1													42									
	29	◎	シフト電子制御装置整備Ⅳ	1													30									
	30	◎	メカトロニクス応用	1													30									
	31	◎	自動車の新技術Ⅲ	1													30									
	32	◎	新技術走行実務	1													16									
	33	◎	自動車ビジネス実務Ⅰ	1											16											
	34	◎	自動車ビジネス実務Ⅱ	1												16										
	35	◎	自動車ビジネス実務Ⅲ	1													16									
	36	◎	自動車ビジネス実務Ⅳ	1														16								
応用 実習	01	◎	車整備実習	1						34														○		
	02	◎	シフト実習Ⅲ	1							34													○		
	03	◎	故障診断Ⅰ	1							34													○		
	04	◎	シフト実習Ⅳ	2								64												○		
	05	◎	シフト実習Ⅴ	2									64											○		
	06	◎	故障診断Ⅱ	2										64										○		
	07	◎	自動車検査実習	2											64									○		
	08	◎	プロジェクトセミナー	4										124										○		
	09	◎	総合実習Ⅰ	2											64									○		
	10	◎	総合実習Ⅱ	2											64									○		
	11	◎	総合実習Ⅲ	2											64									○		
	12	△	インターンシップ導入	1														16						○		
	13	◎	定期点検整備の実践テクニック	2														60								
	14	◎	顧客																							

◎・・・必修科目(他該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
○・・・選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
△・・・選択科目(学生が任意に選択して受講することができるとする科目)
※卒業に必要な履修総単位数は「総必要履修総単位数」欄に示された総単位数である。

		科目コード	1020101
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	コンピュータなどのメディアを活用した情報の収集・検索や、コミュニケーションを行う基礎知識のことを「情報リテラシー」といいます。小山学園では、卒業後にネットワークやパソコンを駆使したコミュニケーションのできる社会人になることを目標に、情報リテラシー教育を行っています。この科目では学内ネットワークを利用できるように設定し、その使用法を理解します。またインターネットに接続したとき、わが身を守るために必要なセキュリティの知識、守らなければならない著作権の知識、掲示板に投稿したリメールを打つときの社会的な常識についても学習します。さらに、後半ではマイクロソフト社のofficeに代表されるアプリケーションを使用し、日本語入力ソフトと表計算ソフト、プレゼンソフトを学習します。これらは自動車業界でも顧客管理、部品管理、実験データの管理など社会人として多くの場面で求められているスキルです。 科目の到達目標 ①基本的なパソコンの操作ができる。②校内ネットワークを使用して情報の収集、発信ができる ③インターネットにおけるマナーを理解する。④日本語入力ソフトの操作ができる。 ⑤表計算ソフトの操作と活用が出来る ⑥プレゼンソフトの操作ができ、プレゼンテーションが出来る	
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	I		
教科名	自動車工学		
科目名	I T リテラシー		
単位	2		
履修時間	34		
回数	17		
必修・選択	必修		
省庁分類	自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。	
教科書	情報リテラシー(小山学園) 30時間でマスターOFFICE2021		

		科目コード	1020201
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	自動車はいろいろな部品が組み合わさってできています。それら部品同士を繋ぐ「ボルト」や「ナット」。回転するものには「軸受け（ベアリング）」走行中路面の凹凸によって発生する衝撃を和らげる「スプリング」など、これらの装置を構成する部品を総称して機械要素と呼んでいます。この要素の種類とその材料を学習します。 これらの部品を設計するには正確な図面を描かなくてはなりません。そのため図面は、設計者の意思を正確に伝えることができるものでなければなりません。そのための描き方、表現方法について学びます。また、整備士にとってサービスマニュアルなどにある図面から、実物を想像でき、さらにその構造や作動までも理解できる、という重要な素養となります。 科目の到達目標 ①ボルト・ナットの種類と特徴がわかる ②自動車で使われるベアリングの種類と特徴がわかる ③自動車で使われるスプリングの種類と特徴がわかる ④金属材料の種類と特徴がわかる ⑤図面を描くためのルールと記載例がわかる ⑥図面を読むこと、描くことができる ⑦実際の立体を見て、図面を作成することができる ⑧図面から、立体を作ることができる	
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	I		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車工学 I		
単位	2		
履修時間	34		
回数	17		
必修・選択	必修		
省庁分類	自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。	
教科書	自動車材料 三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)		

		科目コード	1020301
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	自動車が世の中に出てから100年以上経ち、技術の進歩から現在の高性能なクルマが出来ています。一方で誕生したころからほとんど変わっていないのが「走る」「止まる」「曲がる」という基本的な性能です。自動車を学ぶにあたり始めに学習するのはこれらの基本的な構造です。走るための動力発生装置と伝達装置、曲がるための操舵装置、止まるための制動装置の基本的な構造と作動を学習します。また、動力源であるエンジンについては種類、動力発生仕組み、それを補助する装置などを学習します。 科目の到達目標 ①自動車の歴史と全体の構成がわかる ②「走る」「止まる」「曲がる」ための仕組み（シャシ装置の概要）がわかる ③動力発生仕組み（エンジンの基本作動）がわかる ④エンジンの種類がわかる ⑤エンジン回転と出力の関係がわかる	
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	I		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車工学Ⅱ		
単位	2		
履修時間	34		
回数	17		
必修・選択	必修		
省庁分類	自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。	
教科書	三級自動車整備士(総合) 内燃機関、燃料・油脂		

系	自動車系	シラバス（概要） 自動車整備で、車両をリフトやジャッキで持ち上げてタイヤを取り外す作業があります。このような作業では効率や早さよりも安全確保を第一に考えて作業する必要があります。安全正確に作業を行うには正しい手順と準備、そして真剣な取り組みを必要とします。この科目では車両の一般的な取り扱い方法とジャッキアップを通して安全作業、その上で日常点検とタイヤローテーションについて学びます。 科目の到達目標 日常点検整備及びタイヤ・ローテーション作業を通して、 ①安全な整備作業ができる ②手工具の正しい取り扱いができる ③ジャッキ・アップ、ジャッキ・ダウンができる ④タイヤの取外し取り付け作業ができる
科	自動車系3校共通	
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	I	
教科名	自動車整備作業	
科目名	自動車整備実習	
単位	I	
履修時間	32	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	松村 道隆	スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。
教科書	基礎自動車整備作業	

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	小型エンジンの分解整備と工具および測定具の使用方法を学びます。まずは安全にエンジンの分解作業が出来るために正しい工具の使い方を学び、その後測定に入ります。自動車整備作業では正しい測定が大変重要視されており、修理や交換の目安となっています。このようにエンジン分解→各部測定→組み付けという手順を身に着ける事で様々な整備に対応する事が出来るようになります。 科目到達目標 ①エンジンの基本的な構造が理解出来る ②手工具の正しい取り扱いができる。 ③測定器の正しい取り扱いができる。 ④安全な整備作業ができる。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	I	
教科名	自動車整備作業	
科目名	エンジン実習 I	
単位	I	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	松村 道隆	スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。
教科書	基礎自動車整備作業 三級自動車整備士(総合)	

系	自動車系	シラバス（概要） 自動車が夜間走行するときはヘッド・ランプがないと走行できません。また、進行方向を変えるときはターンシグナル・ランプで他の自動車に対して自分の進行方向を知らせる必要があります。このように自動車にはランプ類をはじめとしている電氣装置が搭載されています。これら電氣装置は大きく分けるとエンジン電装品とシャシ、ボデー電装品に分けられます。この科目では、これら各電装品の車両における配置やそれぞれの役割を学習し、それらの点検に用いるサーキット・テストについて、正しい使用方法をマスターすることを目的とします。 科目の到達目標 ①バッテリーの構造および取り扱い並びに、点検ができる ②サーキットテストの使用法を理解し、電流、電圧、抵抗の測定ができる ③車両の電氣装置の構造理解と点検ができる
科	自動車系3校共通	
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	I	
教科名	自動車整備作業	
科目名	電氣装置実習 I	
単位	I	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	松村 道隆	スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。
教科書	三級自動車整備士(総合) 電装品構造	

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	レシプロエンジンは燃焼室内で燃料が燃焼し、容積が膨張するときの圧力をピストンが受け、その力でクランクシャフトを回転させるエンジンです。これらエンジンの基本的な構造作動を部品や装置名称を含めて学習します。また、後半部分ではガソリンエンジンの燃焼に必要な混合気を作るための燃料供給装置について学びます。古くから使用されていた機械式の燃料供給装置である「キャブレタ」の原理と構造を学び、その後有害ガスを減少するため空燃比を細かく成業できる電子制御燃料噴射装置へ移り変わっていった背景について学習します。 科目の到達目標 ①エンジン本体の構造と特徴がわかる ②ピストン、シリンダの構造と機能、クランク機構のしくみがわかる ③4サイクル4気筒エンジンの作動と工程がわかる。 ④バルブ機構の基本的な構造と作動がわかる ⑤ガソリンエンジンに必要な混合気の特徴が分かる ⑥機械式の燃料供給装置である「キャブレタ」の基本的なしくみと原理がわかる ⑦電子制御式燃料噴射装置の基本的な仕組みと作動がわかる(燃料系統、吸気系統を中心に学習し制御系統は除く)
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備関連	
科目名	エンジンⅠ	
単位	2	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	12.自動車整備関連	評価方法
授業形態	講義	
作成者	佐藤 康夫 松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 内燃機関、燃料・油脂	
		筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	自動車には、「走る」「止まる」「曲がる」という3つの基本性能があり、このうちの止まる性能に関する「制動装置」について学びます。摩擦ブレーキのディスクブレーキとドラムブレーキ、乗用車に多く使用されている油圧式ブレーキ、大型自動車で多く使われているエア式ブレーキ、制動力を増加する制動倍力装置、制動力の制御をするためのアンチロック装置（ABS、EBD等）など、その構造、作動、性能について学びます。 科目の到達目標 ①ブレーキ装置の原理を理解する ②油圧ブレーキ・システムの構造・作動を理解する ③ドラムブレーキ、ディスクブレーキの構造を理解する ④制動倍力装置の構造と作動を理解する ⑤エアブレーキの基本的な構成を理解する ⑥パーキング・ブレーキの構造・作動を理解する
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備関連	
科目名	シャシⅠ	
単位	2	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	自動車整備関連	評価方法
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合)	
		筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	自動車は加速、減速、旋回等、様々な運動を繰り返すため、多くの力が車体に働きます。そしてこれらの力はいくつかの分力に分解したり、逆にいくつかの力を合成したりしますが、全てタイヤと路面との間で働きます。この車体に働く力について基本的な作用と求め方を学びます。また、後半部分では自動車に使用される電気について基本的な内容を学び、今後学習する電気・電子回路等の高度な内容を学ぶ際の基礎知識となるよう学習します 科目の到達目標 ①力学の基礎的な事柄を理解する ②力が実際の自動車ではどのように作用しているかを理解する ③力学の基礎的な計算が出来る ④電気の基礎知識を得る ⑤電気回路のしくみを理解する ⑥電気回路の基礎的な計算が出来る
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車工学	
科目名	自動車工学Ⅲ	
単位	2	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	自動車工学	評価方法
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)	
		筆記試験、100点満点中60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	自動車は点検によってその安全性を確保する必要がある、法律で定期的に点検することが義務付けられています。その点検は専用の機器を使用し専門知識を持った者が行います。この科目では点検作業で使用する工具等を使用し、法律に則った点検整備が出来るよう学習します。さらにブレーキの分解整備を学ぶことで、自動車の安全に最も大切なブレーキ性能を維持するための整備を学びます。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備作業	
科目名	シャン実習Ⅰ	
単位	1	
履修時間	64	
回数	32	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	科目の到達目標 ①日常点検作業を通して車両の点検についての基本的な作業ができる ②点検を行なうときに用いる工具や機器類を正しく使用する事ができる ③点検により不具合が発見されたときの対処法が理解出来る ④ディスクブレーキ、ドラムブレーキの点検整備が出来る ⑤マスタシリンダ、ホイールシリンダ、ブレーキキャリパ等、油圧式ブレーキの分解整備ができる ⑥組み付け後のエア抜き作業ができる
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合)	
		評価方法
		スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	エンジン内部の構造や、動力発生メカニズムは机上で理解するだけでなく、実際の装置や部品を確認することでさらに深く理解する事が出来ます。この科目では直列4気筒ガソリンエンジンを分解し内部機構を確認すること、必要な計測と調整作業を行うことでスムーズで安全なオーバーホール作業ができるよう学習します。
年度	2024年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備作業	
科目名	エンジン実習Ⅱ	
単位	1	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	科目の到達目標 4気筒4サイクル・エンジンのオーバーホール作業を通して、 ①分解組立作業時の注意事項がわかる ②分解作業に当たって適切な工具を選んで使用することができる ③基本的な分解組み立て手順がわかる ④シリンダ・ゲージを使用してボア測定ができる ⑤エンジンの基本的な構造・作動がわかる
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	3級自動車整備士(総合)	
		評価方法
		スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	自動車はコンピュータで制御されている装置の集合体であり、エンジン、ミッション、ブレーキ、ステアリングなどはコンピュータで制御されています。そのため自動車整備士の学習でもコンピュータの基本的な原理から応用までを学ぶ必要があります。この科目では、教材としてレゴ・マインドストームを使用し、基礎的なコンピュータ・プログラムの考え方と各センサーの信号についてを理解することから初めて、最終的には簡単なプログラミングまで出来る事を目標とします。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備作業	
科目名	メカトロニクス実習	
単位	1	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	科目到達目標 ①ECU、センサ、アクチュエータについて理解出来る ②プログラムの流れ（フロー）が理解出来る ③超音波センサが理解出来る ④カラーセンサが理解出来る ⑤衝突防止制動装置のプログラムが出来る
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	オリジナルサブテキスト	
		評価方法
		スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	自動車のエンジン(内燃機関)は、始動時に外部から力を加えて回転し始動します。そのためにスタータ・モータを設け始動時に電気モータの力でエンジンを回転させ始動します。モータの電源にはバッテリーが必要となり、バッテリーを充電するための発電機が必要です。このように自動車には始動装置とバッテリーを充電するための発電装置が必要です。この科目では、モータと発電機の原理からそれぞれの構造作動を理解し分解点検方法とサーキットテストによる点検を学習します。さらに実習車両にてスタータやオルタネータを含む電気装置について、各部の点検および整備方法を学習します。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	2	
教科名	自動車整備作業	
科目名	電気装置実習Ⅱ	
単位	1	
履修時間	64	
回数	32	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	科目到達目標 ①自動車用スタータモータの分解点検要領がわかる ②自動車用スタータモータの内部の構造と不具合発生時の現象及び原因がわかる ③自動車用オルタネータの分解点検要領がわかる ④オルタネータの内部の構造と不具合発生時の現象及び原因がわかる ⑤車両電装品の点検整備が出来る
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合) 電装品構造	評価方法 スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数（60点満点）で合計60点以上を合格とする。

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	エンジンで発生した動力は、最終的にタイヤが路面との摩擦により車体に伝えられます。しかしその途中にはクラッチ、トランスミッション、プロペラシャフト、ファイナルギヤ等が配置され、それぞれが大切な役割で自動車には欠かせない大変重要な役割を担っています。この科目ではこれら動力の流れを追いながら各装置の構造作動を学び、最終的にはタイヤの構造まで学習します。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	3	
教科名	自動車整備関連	
科目名	シャシⅡ	
単位	1	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	12.自動車整備関連	科目の到達目標 ①クラッチの構造と作動がわかる ②トランスミッションの構造作動がわかる ③ファイナルギヤおよびディファレンシャルの構造作動がわかる ④タイヤの構造がわかる ⑤タイヤの種類とホイールの構造種類がわかる
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)	
		筆記試験 100点満点で60点以上合格
		評価方法

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	ディーゼル・エンジンはドイツの技術者R・ディーゼルが熱効率向上のため発明したエンジンです。ガソリン・エンジンとは構造上で異なる部分が多く、特に点火方式と燃料供給方式が異なりそれぞれに特徴があります。今回初めてディーゼル・エンジンを学ぶに当たり、ガソリン・エンジンと比較をしながら学習し、細心のコモンレール式燃料供給装置の概要までを学びます。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	3	
教科名	自動車整備関連	
科目名	エンジンⅡ	
単位	2	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	12.自動車整備関連	科目の到達目標 ①ガソリン・エンジンとディーゼル・エンジンの構造的な違いがわかる ②燃料装置の違いがわかる（インジェクション・ポンプ、インジェクション・ノズル） ③ディーゼル・エンジンとガソリン・エンジンの燃焼の違いがわかる ④コモンレール式高圧燃料噴射装置の概要を理解する
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	
教科書	内燃機関、燃料・油脂 三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)	
		履修判定筆記試験 100点満点中60点以上で合格
		評価方法

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	サスペンションはタイヤとボデーとの間に位置し、車体を支えると共に路面からの衝撃を吸収して乗り心地を良くする働きをします。また、タイヤを路面に押しつけることで適切なロードホールディングを確保する役目をしています。これらの役目をする装置について学びます。さらに、後半部分では、クルマの進行方向を任意に変える装置：ステアリング装置について、そのメカニズムと構造作動を学び、最終的にはクルマがスムーズに直進や旋回することが出来るためのホイール・アライメントについて、そのメカニズムを理解することまでを目標としています。
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	4	
教科名	自動車整備	
科目名	シャシⅢ	
単位	1	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	12.自動車整備関連	◆科目の到達目標 ①サスペンションの働きがわかる ②各種形式サスペンションの構造、作動がわかる（車軸式、独立式、ストラット型、ウィッシュボーン型） ③ステアリング機構（ボール・ナット型、ラック・ピニオン型）の構造及び作動がわかる ④パワー・ステアリングの構造作動が理解出来る ⑤ホイール・アライメントが理解出来る
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)	
		筆記試験 100点満点で60点以上を合格とする
		評価方法

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	二輪車は四輪自動車と共に発達してきたメカニズムと二輪車独自のメカニズムを併せ持つ独特な乗り物です。基本的な性能は「走る」「止まる」「曲がる」といった3つであり、その部分は四輪自動車と変わりはありませんが、二輪車独自の構造部分については点検方法や整備方法が異なり、別に学ぶ必要があります。この科目では、二輪車の構造や作動を学び、安全な運行を保つための整備を学習します。法定点検をベースに前半部分で主にエンジンと電気装置に関する点検整備を、後半部分では主にシャシ部分の点検整備を学びます。 科目の到達目標 ①二輪車と四輪車の構造的な違いを理解する ②二輪車の日常点検ができる（点検箇所、点検要領） ②フロントフォークのオーバー・ホールができる ③ステアリングのオーバーホールが出来る ④制動装置、電気装置の点検整備ができる ⑤法定点検が出来る
年度	2025年度	
学年	1年次	
期	3	
教科名	自動車整備作業	
科目名	二輪車実習	
単位	1	
履修時間	64	
回数	32	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	評価方法
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合)	

系	自動車系	シラバス（概要）
科	自動車系3校共通	エンジンの構造や作動については、これまでに「エンジン実習Ⅰ・Ⅱ」で基本的な作動と構造を学習し、実際にエンジンを分解することでエンジン本体の機構を確認しました。今回の実習ではエンジン本体以外のエンジンに付属した装置の構造・機能を学習します。具体的には潤滑装置、冷却装置、吸排気装置の分解組立作業を通して各装置の内部構造や測定方法を学習し、各項目の点検調整作業の習得を目的とします。 科目の到達目標 ①シリンダ・ヘッド系統の分解組立作業を通じてバルブ機構の組み立て調整ができる ②潤滑装置の点検が出来、その結果が判定できる ③冷却装置の点検が出来、その結果が判定できる ④コンプレッション測定ができ、その結果の判定ができる
年度	2025	
学年	1年次	
期	3	
教科名	自動車整備作業	
科目名	エンジン実習Ⅲ	
単位	1	
履修時間	34	
回数	17	
必修・選択	必修	
省庁分類	21.自動車整備作業	評価方法
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	三級自動車整備士(総合)	

実技試験 60点、筆記試験 40点 合計100点満点で60点以上を合格とする。

		科目コード	1021001
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	エンジンバルブ機構は、適切な時期にバルブを開閉して混合気を導入、密閉、排気を行う装置であり、エンジンの性格・性能を大きく左右するものです。構造が複雑で部品点数も多く理解するためには時間がかかりますが、必要不可欠な内容です。また、バルブ機構だけでなく燃焼に関するメカニズムは、出力及び燃費の向上、排気ガスの浄化等と密接な関係にあります。後半部分では排出ガスの発生原因から発生防止方法及び浄化についてのメカニズムを詳しく学びます。これらのエンジンに関する要素を学ぶことは自動車整備士として大切な知識となります。	
年度	2025		
学年	1年次		
期	4		
教科名	自動車整備関連		
科目名	エンジンⅢ		
単位	1		
履修時間	34		
回数	17		
必修・選択	必修		
省庁分類	12.自動車整備関連		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定試験 100点満点中60点以上を合格とする。	
教科書	三級自動車整備士(総合) 二級自動車整備士(総合) 内燃機関、燃料・油脂		

		科目コード	1021101
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	エンジンの性能を表す指標として、出力やトルクといったものがあり、これらはエンジンの排気量や型式などでその値が異なってきます。この科目では、仕事と出力の概念を知り、自動車の性能の違いを生む要素について学習します。また、後半では自動車に使用されているエア・コンディショナやエア・バッグなどのシャシ電装品について構造作動を学びます。	
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	4		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車工学Ⅳ		
単位	1		
履修時間	34		
回数	17		
必修・選択	必修		
省庁分類	11.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	筆記試験100点満点中60点以上で合格とする	
教科書	二級自動車整備士(総合) 三級自動車整備士(総合) 電装品構造		

		科目コード	2021201
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	自動車系3校共通	自動車が走行するためにはエンジンの回転をタイヤに伝達することが必要となります。また、エンジンで発生するトルクはほぼ一定であるため走行条件に見合ったようにトルクや回転数を変換しなければなりません。この役割をしているのがトランスミッションです。また、必要なときに動力を断続するクラッチも必要になります。デファレンシャルは旋回時に左右輪の回転差を作ることでスムーズな転回ができる装置。その差動を制限するLSD。車両の状態にあわせてトランスミッションからの動力をタイヤまで確実に伝える装置のアクスルやプロペラ・シャフト。駆動力を全輪に伝える4WDシステムについて学習します。	
年度	2024年度		
学年	1年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	シャシ実習Ⅱ		
単位	1		
履修時間	64		
回数	32		
必修・選択	必修		
省庁分類	21.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	スキルチェック合格後、スキル点40点に筆記試験点数(60点満点)で合計60点以上を合格とする。	
教科書	三級自動車整備士(総合)		

No.	1	科目コード	1030102
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	森林破壊、地球温暖化やオゾン層の破壊など、地球の自然環境は年々悪化をたどっています。自動車から排出される排気ガスは大きな原因の一つとなっており、整備士として地球環境に関心を持つことは大切になってきています。この科目では、自動車と環境問題の関わりを学び、社会全般の中で位置づけや方向性について学習します。また、自動車は社会経済活動に欠くことの出来ないきわめて重要な役割を果たしている反面、大気汚染、騒音、交通事故等が社会問題となっています。それらの問題を解決する新エネルギー等の新技術開発の動向を知ることにより、今後の自動車と都市交通のトレンドについて考えていきます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車と環境		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	深澤秀治	筆記試験100点満点 60点以上合格 (レポート課題が、提出されていることが条件)	
教科書	自動車と環境問題		

No.	2	科目コード	1030202
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	電子制御式燃料噴射装置では、インジェクタからの基本噴射量は吸入空気量とエンジン回転数によって決めています。また、始動時の状態は水温から感知し、負荷状態の違いについてはスロットルポジションセンサから求め、各運転状態に必要な混合気を供給しています。これらについては、1年4期「ガソリンエンジン燃料装置の整備」及び2年1期「電子制御式燃料噴射装置のしくみ」において学んできました。この科目ではさらに、排気ガスの浄化性能を保つための空燃比制御、その他刻々と変化するエンジンの状態に合わせ適切な燃焼状態を得るための、噴射の時間を変化させています。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	自動車工学		
科目名	電子制御のしくみ		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	向野 直樹	筆記試験100点（満点） 60点以上で合格	
教科書	3級・2級ガソリンエンジン		

No.	3	科目コード	1030302
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	ディーゼル・エンジンはガソリン・エンジンと比べて燃焼の仕方が異なります。機械式燃料噴射装置については1年次に三級程度の内容がある程度網羅していますが、近年は既に学んだ機械式燃料噴射装置に代わり、コモンレール式燃料噴射装置やユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置の採用により、噴射する燃料を微粒化させると共に噴射量、噴射時期などを最適な状態に制御し、クリーンな排出ガスを目指しています。この科目では、1年次の内容がある程度絞って復習すると共に、主にコモンレール式燃料噴射装置について学びます	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	自動車整備		
科目名	ディーゼルエンジンの燃料装置		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	02.自動車整備		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	西島 晶洋	筆記試験100点（満点） 60点以上で合格	
教科書	2・3級ジーゼルエンジン		

No.	4	科目コード	2030102
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	燃料装置には、排出ガス規制、燃料消費量の低減、運転性能の向上などエンジンの混合気供給をより効率的に働かせるため、エンジンの運転状態（吸入空気量、エンジン回転数、水温、スロットルバルブ開度等）に合わせた、より適正に、きめ細かな制御が求められています。これを行なうため、燃料供給を電子的にコントロールしているのが、電子制御式燃料噴射装置です。この科目では、装置の構成やそのつながりの概要を確認し、通常の運転状態の変化におけるセンサーの種類と働き、その信号を処理するコンピュータの働き、また、各装置を作動させるアクチュエータの種類と働きについて学び、理解することを目的とします。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	自動車整備作業		
科目名	電子制御燃料噴射装置の整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	達田 誠	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
教科書	2級ガソリンエンジン		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	ステアリング装置全般を勉強します。概要として、ステアリング装置の基本的分類として操作機構、ギア機構、リンク機構に分かれますが、それぞれがどのような役割を担っているか、ハンドルの操作性と操作力の関係は、ギヤ比だけを替えた場合はお互いが反比例の関係になります。操作性を良くし、かつ操作力を軽減させることはギヤ比の変更だけでは出来ませんが、油圧やモータによりパワー・アシストすることによって実現することが可能になります。これによって軽自動車から大型自動車まで、ハンドル操作が非常に楽に出来るようになってきました。
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	1	
教科名	自動車整備作業	
科目名	パワーステアリングの整備	
単位	1	
履修時間	40	
回数	20	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	西島 晶洋	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点
教科書	シャン構造Ⅱ、2級自動車シャン	ただし、チェック試験項目については必修とする。
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	ハイブリッド車が開発された経緯（自動車を取り巻く環境問題）を学習し、他の自動車（FCV、CNGなど）とハイブリッドの違いを理解する。またトヨタ・プリウスを使用しハイブリッド車の構造や作動を理解し、ハイブリッド車の特徴や作業上の注意点を知る。また、新しい機構を数多く採用しているため、パワーウィンドーの挟み込み防止機構、CAN通信について学習する。
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	1	
教科名	自動車検査作業	
科目名	エコ新技術の点検整備	
単位	1	
履修時間	40	
回数	20	
必修・選択	必修	
省庁分類	09. 自動車検査作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	向野 直樹	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点
教科書	オリジナルサブテキスト	ただし、チェック試験項目については必修とする。
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

No. 1		科目コード 1010802
系	自動車系	シラバス（概要） 現代社会はグローバル化が促進され、特に自動車業界では海外での日本車販売拠点も増えており、優秀な整備技術者が求められています。当科目ではこうした海外での機会や国内でも諸外国の人々との交流に際して堂々と対処できる力をつける事を目的とします。 部品や装置の正しい記述や発音、簡単な動詞の引用方法など自動車技術者ならではの会話に必要な英語力を身につける事で将来の活躍範囲が広がります。 目標 ①自動車部品の英語での表現ができる ②自動車部品の英語での表現を聞き取ることができる ③簡単な整備作業指示が英語でできる
科	482.品川1級自動車整備科	
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	2	
教科名	一般教養	
科目名	グローバル・コミュニケーションⅢ	
単位	1	
履修時間	16	
回数	8	
必修・選択	必修	
省庁分類	00.一般教養	
授業形態	講義	
作成者	松村 道隆	期末に履修判定筆記試験を実施。60%以上の得点で合格とする。
教科書	自動車整備士の英語(自動車公論社)	

No. 2		科目コード 1030402
系	自動車系	シラバス（概要） 自動車に要求される性能は、走る、止まる、曲がるだけでなく、公害防止、安全性などの質的なものと、利便さや快適さなど人間的要求と多様になってきている。快適さという点から観ると、エアコンディショナーは欠かせない装置となっており、気持ちよく運転することは安全性にもつながる面がある。したがって、エアコンについての知識を持つことは、2級整備士にとって必須項目である。また、近年搭乗者の安全性の確保という観点から、従来からあるシート・ベルトに加えエア・バッグを装着している自動車も多くなってきた。 科目の到達目標 シャシ電気装置に関して、 ①エアコンディショナの構造と作動及び整備方法がわかる ②自動車の安全装置（SRSエアバッグシステムの構造と作動、プリテンショナ・シート・ベルト）の構造と作動がわかる
科	482.品川1級自動車整備科	
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	2	
教科名	自動車整備	
科目名	シャシ電気装置	
単位	1	
履修時間	20	
回数	10	
必修・選択	必修	
省庁分類	02.自動車整備	
授業形態	講義	
作成者	蓬田 誠	筆記試験にて100点満点中60点以上合格
教科書		

No. 3		科目コード 1030502
系	自動車系	シラバス（概要） エンジン、トランスミッションをはじめ自動車には多くの電子制御装置が搭載されています。電子制御は、機械制御に比べてその精度の高さから使用される装置が非常に多くなっており、現在の自動車はこの電子制御の理解が無くては考えられないほどになっています。この科目では、電子制御について理解することが自動車を正しく且つ深く理解する上で欠かせないものと位置付け、電子制御の考え方、入力信号の処理、出力信号の考え方について、又電子制御の基本概念について学習します。 科目の到達目標 ①電気回路（経路・記号・リレー回路・スイッチ回路）がわかる ②オームの法則、トランジスタ回路がわかる ③基礎的な電気回路の作成ができる（トランジスタ、マルチバイブレータ、論理回路）
科	482.品川1級自動車整備科	
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	2	
教科名	機器取り扱い	
科目名	デジタル回路実験	
単位	1	
履修時間	20	
回数	10	
必修・選択	必修	
省庁分類	03.機器取り扱い	
授業形態	講義	
作成者	向野 直樹	筆記試験 100点満点 60点以上合格
教科書	オリジナルサブテキスト	

No. 4		科目コード 1030602
系	自動車系	シラバス（概要） 現在の自動車は（特に新車は）ほとんどの車両がオートマチック・トランスミッションを採用しています。さらにそのオートマチック・トランスミッションでも、従来からのプランナリ・ギヤを使用したものやベルトとプーリを使用した無段変速機（CVT）及び、最近ではローラとディスクを利用したトロイダル式CVTまでいろいろな形式のものが採用されています。この科目では、トルク・コンバータとプランナリ・ギヤ・ユニットで構成されたオートマチック・トランスミッションの構造・作動について、学習します。2年3期・4期のATの分解作業の講義部分です。 科目の到達目標 ①オートマチックトランスミッションを分解できる ②トルク・コンバータの構造・作動がわかる ③プランナリ・ギヤ・ユニットの構造・作動がわかる
科	482.品川1級自動車整備科	
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	2	
教科名	自動車整備	
科目名	オートマチックトランスミッションのしくみ	
単位	1	
履修時間	20	
回数	10	
必修・選択	必修	
省庁分類	02.自動車整備	
授業形態	講義	
作成者	西島 晶洋	筆記試験にて100点満点中60点以上合格
教科書		

No.	5	科目コード	2030502
系	自動車系	シラバス（概要） 現在わが国では約7900万台（内2輪350万台）の自動車が保有されています。これらの車を使用する場合、定期的に整備を行なうことによって安全に使用することができます。整備作業には部品の分解組み立てや交換といった作業がありますが、特に分解組み立て後は必ずといっていい程調整作業が入ります。この科目では、自動車の整備作業から調整作業にいたる一連の流れと効率の良い整備・調整作業について習得します。 科目の到達目標 ①ホイール・アライメントの各要素（キャンバ、キャスタ、キング・ピン・傾斜角（アングル）、トーイン、ターニング・ラジラス等）の点検・測定ができる ②サスペンションの分解ができる ③ホイール・アライメントとサイド・スリップとの関係がわかる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	2		
教科名	自動車整備作業		
科目名	ホイールアライメントの整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法 筆記試験にて100点満点中60点以上合格	
作成者	今井 正典		
教科書			
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	6	科目コード	2030602
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	自動車の整備をするとき、エンジン、トランスミッション、サスペンションなどを降ろして作業をすることがあります。これら重整備を行なうときは、自分と周囲の安全に十分注意をして行なうことが重要になります。 科目の到達目標 ①重整備に関わる作業手順を把握し、安全で正確な整備作業ができる ②車両からのエンジン脱着作業ができる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	2		
教科名	自動車整備作業		
科目名	エンジンの脱着作業		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08. 自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	今井 正典	筆記試験にて100点満点中60点以上合格	
教科書			
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	7	科目コード	2031502
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	セミナーグループ毎の目標を立てる。昨年の資料があり継続の場合は、昨年度のセミナー報告書を元に目標を設定する。新規内容セミナーに於いては、予算や使用できる教材等を確認の上、情報を多く集め計画に反映させてゆく。また、グループ活動を通して問題点を指摘しあって、PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを実践し、「計画」「実行」「評価」「改善」がどのように関わってくるのかについて学ぶ。そのためにまず2期での作業としては、まず自分自身の脳力レベルを探り、認識するところから始める。 科目の到達目標 ①PDCAの意味がわかる ○各班毎に役割を分配する。（全体の計画と個人の役割を把握する） ☆行動準備（本格的な行動に入る前に、多くの資料、必要機材、必要工具など必要な物を集める） ◆目標時間を各自で定め、確実に作業が行えるよう努力する。計画通りにいかなかった点を反省する。 ★セミナー開催日ごとに各自のレポートを作成しておくこと。（問題点の解決策）写真等の記録も行うこと。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	2		
教科名	自動車整備作業		
科目名	プロジェクトセミナーⅠ		
単位	1		
履修時間	32		
回数	16		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業	評価方法	
授業形態	実習	本科目は出席点（レポート提出）とレポート点を持って評価する。出席点は100%出席で50点とし、期毎の全コマ数で換算する。レポート点は5段階評価で満点は50点、以下10点刻みの配点とする。合計で100点満点とし、60点以上を合格とする。	
作成者	太田 亨		
教科書	オリジナルサブテキスト等		

No.	1	科目コード	1010902
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	現代社会はグローバル化が促進され、特に自動車業界では海外での日本車販売拠点も増えており、優秀な整備技術者が求められています。当科目ではこうした海外での機会や国内でも諸外国の人々との交流に際して堂々と対処できる力をつける事を目的とします。 部品や装置の正しい記述や発音、簡単な動詞の引用方法など自動車技術者ならではの会話に必要な英語力を身につける事で将来の活躍範囲が広がります。 目標 ①自動車部品の英語での表現ができる ②自動車部品の英語での表現を聞き取ることができる ③簡単な整備作業指示が英語でできる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	一般教養		
科目名	グローバル・コミュニケーションⅣ		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	00.一般教養		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	期末に履修判定筆記試験を実施。60%以上の得点で合格とする。	
教科書	自動車整備士の英語（自動車公論社）		

No.	2	科目コード	1030702
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	自動車の基本法である道路運送車両法、同施行規則、自動車点検基準、優良自動車整備事業者認定規則、指定自動車整備事業規則等の関係法令について主要な要点について理解をします。なお、最低限、二級自動車整備士試験に出題される条項は完全に理解するとともに、職場において整備主任者、自動車検査員になれるための基礎知識を身につけます。 科目の到達目標 ①道路運送車両法第1章がわかる ②道路運送車両法第2章がわかる ③道路運送車両法第3章がわかる ④道路運送車両法第4章がわかる ⑤道路運送車両法第5章がわかる ⑥道路運送車両法第6章がわかる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	整備法規		
科目名	整備法規		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	04.整備法規		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	西島 晶洋	筆記試験 100点満点 60点以上合格	
教科書	法令教本		

No.	3	科目コード	1030802
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	自動車は主に燃料を燃やすことによって動力を発生しています。 このときに発生する排気ガスには有害成分が含まれており、人体や環境に影響を与えています。したがって、それらの排出を規制するための法律があり、排出濃度が決められています。 これに対応して自動車には具体的にそれらを浄化するため排出ガス浄化装置が備えられています。 科目の到達目標 ①排出ガス中の有害成分の特性及び発生メカニズムがわかる ②有害成分の低減方法についてシステム別の内容がわかる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車工学		
科目名	エンジン装置		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	太田 亨	筆記試験 100点満点 60点以上合格	
教科書	2級ガソリン自動車エンジン編		

No.	4	科目コード	1030902
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	二級整備士の試験にはこれまで学んできた自動車の構造・作動及び整備に関する問題だけでなく、材料や機械要素といった工学的な内容の問題も出題されます。これらの内容は、これまでいろいろな科目において学んできました。この科目では次の各項目について整備士の問題として出題されたときその問題に解答でき得る力を付けることを目的とします。 科目の到達目標 ①製図及び機械要素に関する問題が解ける ②材料に関する問題が解ける ③燃料と潤滑剤に関する問題が解ける ④自動車の諸元及び性能に関する問題が解ける	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車工学Ⅰ		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者		筆記試験にて100点満点中60点以上合格	
教科書			

No.	5	科目コード	2030702
系	自動車系	シラバス（概要） 故障現象は単独の原因による場合と、複数の原因が複合している場合があります。ガソリン・エンジンが円滑に回転するためには、「強い火花」「適切な混合気」「規定の圧縮圧力」といった３つの要素が満たされていなければなりません。一方で故障現象はこれら３つの要素のうち１つ又はそれ以上の要素が満たされていないため起こってきます。 科目の到達目標 ①電子制御式燃料噴射装置のエンジンをを用いた点検ができる ②故障診断作業ができる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	ガソリンエンジンの診断整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法 実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
作成者	向野 直樹		
教科書	2級ガソリン自動車エンジン編		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	6	科目コード	2030802
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	自動車には種々の故障が発生します。これら故障に対して整備士は適切に対処できなくてはなりません。これまで実施してきた科目の中で故障診断に関する科目としては、2年4期「ガソリン・エンジンの診断整備」と2年3期「ディーゼル・エンジンの診断整備」があります。 科目の到達目標 ①シャシ関係の故障探求ができる ②電装品関係の故障探求（自動車の配線図を読むことを含む）の故障探求ができる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	自動車のトラブルシュート		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	西島 晶洋	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
教科書	2級自動車シャシ編		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	7	科目コード	2030902
系	自動車系	シラバス（概要） 現在の自動車は（特に新車は）ほとんどの車両がオートマチック・トランスミッションを採用しています。さらにそのオートマチック・トランスミッションでも、従来からのプラネタリ・ギヤを使用したものやベルトとプーリを使用した無段変速機（CVT）及び、最近ではローラとディスクを利用したトロイダル式CVTまでいろいろな形式のものが採用されています。 科目の到達目標 ①オートマチックトランスミッションを分解できる ②トルク・コンバータの構造・作動がわかる ③プラネタリ・ギヤ・ユニットの構造・作動がわかる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	オートマチックトランスミッションの整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	今井 正典		
教科書	シャシ構造Ⅰ、2級シャシ		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	8	科目コード	2031602
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	グループ学習の中で、自分たちが計画し行動を続けて来た訳だが、1つの目標に向かってゆく工程の中間発表を行う準備をする。授業で使用している教材を見直し、実用化できるものを製作するグループは、学園祭でのセミナー発表で製作物の成果を展示すると同時に、内容を伝える工夫を考える。（プレゼンテーション）自分たちが学んできた時、理解しにくかった部分をシュミレータ等でカバーできないだろうか。2級国家試験問題を解いてみて理解していない部分は何処か。後輩たちの為に必要な教材ものづくりを目指す。また、校外のレース等の大会参加型セミナーに於いては、時間内にもっと安全な作業が可能等々いろいろな目線でグループテーマを決めて活動に入り、結果が出ているものについては結果報告をするとともに、反省点・問題点・自己評価をする。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	プロジェクトセミナーⅡ		
単位	1		
履修時間	32		
回数	16		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	太田 亨	出席点（レポート提出）とレポート点を持って評価する。出席点は100%出席で50点とする。レポート点は5段階評価で満点は50点、以下10点刻みの配点とする。合計で100点、60点以上合格	
教科書	オリジナルサブテキスト		

No.	1	科目コード	1031002
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	自動車はその構造が国土交通省令で定める保安基準上又は公害防止上の技術基準に適合するものでなければ、運行の用に供してはならないとなっています。これらを管理する法規は、自動車のプロフェッショナルとして必要な知識と捉えてください。なお、最低限、二級自動車整備士試験に出題される条項は完全に理解するとともに、整備主任者になるまでの、整備士としての法令知識を身につけることを目的とします。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	検査法規		
科目名	検査法規		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	05. 検査法規		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	西島 晶洋	筆記試験 100点満点 60点以上合格	
教科書	法令教本		

No.	2	科目コード	1031102
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	自動車走行中の危険な状態を避け、事故を未然に防ぐにはドライバーが思い通りに車を操作できることが大切です。ドライバーの事故回避操作を確実に車のコントロールに移し、危険な状態を回避するものとしてABS（アンチロック・ブレーキ・システム：Antilock Brake System）があります。このABSは油圧式ブレーキ用とエア・ブレーキ（フル・エア式、複合式）のものがあり、いずれも制動時の車両の安定性を図っています。また、大型車では主ブレーキのほかに補助ブレーキとして、排気ブレーキ（エキゾースト・ブレーキ）やエディカレント・リターダも使われています。この科目ではこれらのシステムの基本的な構造と作動について学習していきます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	自動車整備		
科目名	ブレーキの安全装置		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	02. 自動車整備		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松永 一寿	筆記試験 100点満点 60点以上合格	
教科書	シャシ構造Ⅱ、2級自動車シャシ		

No.	3	科目コード	1031202
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	二級国家試験を合格するためには、「工学」「エンジン」「シャシ」「電気」「法規」といった各分野の内容を理解していなければなりません。その中でも、「工学」分野は計算問題があり苦手いと思ひ込んでいる人が比較的多い分野です。ところが、この「工学」が出来ないと二級には合格できません。この科目では、これまでに学んできた二級国家試験レベルの自動車工学的な内容に答えられる力を付けることを目的とします。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	自動車工学		
科目名	自動車工学Ⅱ		
単位	1		
履修時間	20		
回数	10		
必修・選択	必修		
省庁分類	01. 自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	今井 正典	筆記試験 100点満点 60点以上合格	
教科書	基礎自動車工学		

No.	4	科目コード	2031002
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	エンジンスムーズに動かすためには、ガソリン・エンジンでもディーゼル・エンジンでもきちんとした点検整備を行なうことが必要になります。また、不具合が発生したときは的確な診断の基に整備を行なうことが大事になります。又、近年ディーゼル・エンジンでも電子制御燃料噴射装置が採用されてきました。電子制御式ガバナや電子タイマなどがそれです。 科目の到達目標 ①ディーゼル・エンジンの補機類の脱着及びエンジン調整ができる ②排ガス中の有害物質の測定ができる（その発生原因がわかる） ③電子制御式燃料装置（電子制御式ガバナ・電子タイマ・等）の構造機能がわかる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	ディーゼルエンジン燃料装置の整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	西島 晶洋	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
教科書	2級ジーゼル自動車エンジン編		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	5	科目コード	2031102
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	大型車には圧縮空気圧を利用したものが多く使われています。この授業では、で大型車両の圧縮空気を利用した装置（エア・サスペンション、フル・エア・ブレーキ、複合式ブレーキ）について理解を深めます。 科目の到達目標 エアサス・エアブレーキの ①装置の各部品を分解を通して、構造・作動がわかる ②圧縮空気発生装置、ブレーキバルブ、複合式・フルエア式の各装置の役割と配管経路がわかる ③走行安定性や乗り心地の特徴がわかる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	エアサス・エアブレーキの整備		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08. 自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	佐藤 岳人	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
教科書	シャシ構造Ⅱ、2級シャシ		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	6	科目コード	2031202
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	道路運送車両法の概要と、法で定められた点検整備の種類が理解でき、且つ法定24ヶ月点検（車検）の各項目について点検検査ができることを目的とします。また、定期交換部品や消耗品については交換時期や交換作業ができることも目的とします。 科目の到達目標 ①道路運送車両法の概要がわかる ②法で定められた点検整備の種類が理解でき、且つ法定24ヶ月点検（車検）の各項目について点検検査ができる ③定期交換部品や消耗品については交換時期を把握した交換作業ができる	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	自動車検査作業		
科目名	自動車検査実習		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	09. 自動車検査作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	向野 直樹	実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。	
教科書	シャシ、エンジン、電装		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	年度当初に自分達で立てた計画に対し、進捗状況を再確認する必要がある。 セミナー報告書として、3期に渡る活動を振り返り、研究目的の設定、実際の活動、問題点、解決策、今後の課題、目標達成度、後輩へのアドバイス等々をまとめ提出する。 科目の到達目標 ①PDCAを念頭に置き作業ができる ○4期での作業としては、まず残りの日程を確認した上で、目標を達成できるか。目標を修正する必要があるかを協議する。 ○残っている作業に全力で取り組む。 ○年間で振り返り、自己評価をする。 ○活動を報告にまとめる。
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	4	
教科名	自動車整備作業	
科目名	プロジェクトセミナーⅢ	
単位	1	
履修時間	40	
回数	20	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	実習	
作成者	太田 亨	
教科書	オリジナルサブテキスト	評価方法 出席点（レポート提出）とレポート点を持って評価する。出席点は100%出席で50点とする。レポート点は5段階評価で満点は50点、以下10点刻みの配点とする。合計で100点、60点以上合格

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	大型車両を中心として、特有のフレーム構造やサスペンション構造について、その点検、計測方法について理解する。この実習では大型車が乗用車と比べて構造的な相違点、また、その特徴について学習していく。 科目の到達目標 大型車両を実際に確認した状態で ①小型自動車との各装置・構造上の違いが分かる ②ディーゼルエンジン・ブレーキの特有の機構がわかる ③ダブルタイヤの脱着作業ができる ④タイトコーナリング現象がわかる
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	4	
教科名	自動車整備作業	
科目名	大型車両実習（長野実習Ⅱ）	
単位	0	
履修時間	28	
回数	14	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	研修	
作成者	福澤 敦美	
教科書	オリジナルサブテキスト	評価方法 実技試験 60点、筆記試験 40点 合計 100点 ただし、チェック試験項目については必修とする。
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

No.	1	科目コード	1031302
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級ガソリン種目の試験に合格できる力を身につけるため、演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出题された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	5		
教科名	自動車工学		
科目名	ガソリン自動車構造		
単位	2		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書	2級・3級ガソリンエンジン・シャシ		

No.	2	科目コード	1031402
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級ディーゼル種目の試験に合格できる力を身につけるため、演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出题された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	5		
教科名	自動車工学		
科目名	ディーゼル自動車構造		
単位	2		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書	2級・3級ディーゼルエンジン・シャシ		

No.	3	科目コード	1031502
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級整備士国家試験に合格できる力を身につけるため、整備法規の演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出题された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	5		
教科名	整備法規		
科目名	自動車の法令（整備法規）		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	04.整備法規		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書	法令教本		

No.	4	科目コード	1031602
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級整備士国家試験に合格できる力を身につけるため、整備法規の演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出题された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	5		
教科名	検査法規		
科目名	自動車の法令（検査法規）		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	05.検査法規		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書	法令教本		

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級ガソリン種目の試験に合格できる力を身につけるため、演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出題された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。 科目の到達目標 国家2級ガソリンの試験問題の内容について ①工学（計算も含）問題がわかる ②エンジン全般の問題がわかる ③シャシ全般の問題がわかる ④電気装置全般の問題がわかる ⑤法令全般の問題がわかる
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	5	
教科名	自動車整備作業	
科目名	ガソリン総合整備	
単位	2	
履修時間	72	
回数	36	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	2級・3級ガソリンエンジン・シャシ	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	2級国家試験対策として、2年間学んだ自動車の知識をもとにして2級ディーゼル種目の試験に合格できる力を身につけるため、演習問題を中心としたまとめを行う。●過去、実際に出題された問題について、問われていることを正確に読み取ることができる。●間違えやすい問題に注意し、正しい答えを導くことができる。 科目の到達目標 国家2級ディーゼルの試験問題の内容について ①工学（計算も含）問題がわかる ②エンジン全般の問題がわかる ③シャシ全般の問題がわかる ④電気装置全般の問題がわかる ⑤法令全般の問題がわかる
年度	2025年度	
学年	2年次	
期	5	
教科名	自動車整備作業	
科目名	ディーゼル総合整備	
単位	2	
履修時間	72	
回数	36	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	実習	評価方法
作成者	太田 亨	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	2級・3級ディーゼルエンジン・シャシ	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

No.	1	科目コード	1010503
系	自動車系	シラバス（概要） 卒業生の人材目標である「日本国内だけでなく世界で活躍出来るグローバルな人材」について、実際に海外で活躍している卒業生の姿を見ることにより再確認し、将来の就職先選択肢の一つとする。また、海外で働くことの難しさ、知っておくべき事、やりがいなどを実際の作業を見ながら体感することで今後の学校生活により一層の価値を見出すこと。さらに、ここで得た知識をまとめ、学内発表することで目的意識を向上させる。 目標 ①卒業生が海外でどのような仕事をしているか理解する ②海外で働くことの難しさ、やりがいなどを理解する ②研修の発表をプレゼンできる	
科	482. 品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	1		
教科名	一般教養		
科目名	海外研修		
単位	2		
履修時間	32		
回数	16		
必修・選択	選択		
省庁分類	00. 一般教養		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆		
教科書			

No.	2	科目コード	1022003
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	1級整備士として、自動車を取り巻く環境問題の実態を捉え、社会的な取り組みあるいはメーカーが実施している対応策について理解を深めるとともに、1級整備士として管理業務やコンサルタント業務に応用できる基礎レベルを習得し、1級整備士試験出題問題にも対応できる知識を身につける。	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	1		
教科名	機器取り扱い		
科目名	環境保全とリサイクル		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	03. 機器取り扱い		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			
		評価方法	

No.	3	科目コード	1022103
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川I級自動車整備科	Excelを使用して、データベースの基本設計の仕方とその管理活用方法について学ぶ。実際にExcelの操作をすることにより理解する。これにより情報リテラシーの基本であるデータベースの理解を深めデータベースのソフトウェアの応用につなげる。 目標 ①MS Excelの基本操作ができる ②Excelでデータベースが構築できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	1		
教科名	自動車工学		
科目名	情報リテラシー応用Ⅰ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	01. 自動車工学		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書		評価方法	

No.	4	科目コード	1022203
系	自動車系	シラバス（概要） 自動車を取り巻く環境やエネルギー事情は世界各国で異なります。たとえば環境保全への動きを見るとヨーロッパ諸国では豊富な資源を効率よく使用できる「ディーゼルエンジン」、アメリカでは従来の馬力指向からダウンサイジングによる「省エネ化」、そして資源のない日本では「電気エネルギー」にそれぞれ技術の中心を置き始めています。この講座ではこれらの背景にある諸外国の自動車事情と日本の自動車メーカーとの繋がりを学習します。 目標 ①海外国の特徴ある自動車産業を理解する ②各国の自動車メーカーについて理解する ③国毎の交通事情について理解する	
科	482. 品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	1		
教科名	自動車整備		
科目名	プレゼンテーション技法 I		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	02. 自動車整備		
授業形態	講義	評価方法 履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書			

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	電気・電子回路の基礎的な知識を身につけ、電子制御の概念について理解する。 電子プロトボード及びデジタルテスターを用いて回路を構築しながら基本的な電子回路のしくみと、その要素について学び、機械制御と電子制御の違いまで理解する。 目標 ①簡単な電子回路の設計ができる ②簡単な電子回路の作成ができる ③作成した電子回路の故障診断ができる
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	1	
教科名	自動車整備作業	
科目名	電気・電子回路実習	
単位	2	
履修時間	60	
回数	30	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	評価方法
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	エンジン電子制御装置	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	1級整備士を目指す学生にとっては、専門の技術や知識を身につけることはもちろんであるが、社会人として備えるべきマナーを学生時代に習得することを求められている。 ①挨拶や言葉遣いは社会人レベルの実力をつけること。 ②就職活動において必要とされる履歴書や作文の作成を通じてビジネスマンとして必要な実務的な実力を身につけること。 ③就職適正試験レベルの問題を解答できる力を身につけ、常識力を高めること。 ④業界の技術動向を知り、問題や課題を発見できる力を身につけること。 を目的とする。
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	1	
教科名	サービス実習	
科目名	自動車ビジネス実務 I	
単位	0	
履修時間	16	
回数	8	
必修・選択	必修	
省庁分類	14. サービス実習	評価方法
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書	就職活動ガイドブック	出席状況とレポート点、筆記試験の成績をを持って評価する。出席率 100% 50点、以降 1 欠席ごとに5点減点、0出席は0点、レポートは30点満点。筆記試験は20点満点。

No.	1	科目コード	1022403
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	前期でおこなったデータベースの基本学習をもとに、複数の表を連携させるリレーショナルデータベースについての学習をMicrosoft Accessを用いて行う。データベース構築のために必要な基礎知識をPCの実習を通じて体感し、自身の基礎能力として獲得する。 目標 ①MSアクセスの基本操作ができる ②アクセスでデータベースが作成できる ③作成したデータベースの活用ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	2		
教科名	自動車工学		
科目名	情報リテラシ応用Ⅱ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆	評価方法	
教科書		履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	2	科目コード	1022603
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	現代社会はグローバル化が促進され、特に自動車業界では海外での日本車販売拠点も増えており、優秀な整備技術者が求められています。当科目ではこうした海外での機会や国内でも諸外国の人々との交流に際して堂々と対処できる力をつける事を目的とします。 部品や装置の正しい記述や発音、簡単な動詞の引用方法など自動車技術者ならではの会話に必要な英語力を身につける事で将来の活躍範囲が広がります。 目標 ①自動車部品の英語での表現ができる ②自動車部品の英語での表現を聞き取ることができる ③簡単な整備作業指示が英語でできる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	2		
教科名	自動車概論		
科目名	グローバル・コミュニケーションⅤ		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	12.自動車概論		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆	評価方法	
教科書	自動車整備士の英語(自動車公論社)	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	3	科目コード	1022703
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	エンジンの電子制御装置に使用する真の実効値方式サーキットテスターおよびオシロスコープについて、その機能および性能を理解し、正しい測定方法を習得する。 目標 ①新の実効値サーキットテスターで交流電圧の測定ができる ②オシロスコープで正しい測定ができる ③エンジン・センサ類の電圧測定ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	2		
教科名	自動車整備		
科目名	エンジン電子制御装置整備Ⅰ		
単位	4		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	02.自動車整備		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆	評価方法	
教科書	エンジン電子制御装置整備	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	4	科目コード	2022103
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	メカトロニクス基礎、メカトロニクス応用で得た知識を基に、自走式ライトレースロボットの製作とプログラミングを学習し、マイクロマウス競技会二酸化する車両を製作し、実際の大会に参加してその完成度を確認する。さらに、結果に基づき問題点の抽出を行い次年度への申し送りを行う。 目標 ①PDCAサイクルを使用した目標達成プロセスが構築できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	2		
教科名	自動車整備作業		
科目名	応用セミナーⅠ		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	選択		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者		評価方法	
教科書		出席状況と、提出物によって評価する。出席率 100% 50点、提出物は50点満点。合計100点を履修成績とする。	

No.

5

科目コード

2022203

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	電子制御オートマティクトランスミッションの変速制御について学習し、車速センサとスロットルポジションセンサおよび他の入力信号を基に、演算しアクチュエータを駆動する制御方法について学ぶ。 また、各種センサの信号検出とその点検方法及びアクチュエータの点検方法について修得する。 目標 ①A Tの変速制御が理解できる ②不具合発生時の現象から原因が想像できる ③センサ及びアクチュエータの良否判断ができる
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	2	
教科名	自動車整備作業	
科目名	シャシ電子制御装置整備Ⅰ	
単位	2	
履修時間	60	
回数	30	
必修・選択	必修	
省庁分類	08. 自動車整備作業	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	実技試験60点、履修判定筆記試験40点、合計100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	シャシ電子制御装置	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

No.

6

科目コード

2022303

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	1級自動車整備士は最新の故障診断器（スキャンツール）を使いこなして各種故障診断を行う技術を修得しますが、海外に目を向けたとき、必ずしも設備が整った環境で整備を行えるとは限りません。この科目では入学してからこれまでに修得した整備技術を元に、故障診断器（スキャンツール）等がない状況でも整備を可能にするような応用技術を身につけます。基本工具と簡易的なテストのみで整備を行う方法を身につける事で「考える力」を養い、機器やマニュアルに頼らない本当の意味での整備技術を身につける事ができます。 目標 ①電子制御用の簡易テスター回路が理解できる ②簡易テスターの作成ができる ③簡易テスターによる故障診断ができる この期では各種簡易テストの作成とそれを実際に使用した整備方法を学習します。
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	2	
教科名	工作作業	
科目名	グローバル・メンテナンス技術Ⅰ	
単位	1	
履修時間	40	
回数	20	
必修・選択	必修	
省庁分類	06. 工作作業	
授業形態	実習	
作成者	松村	期末に履修判定筆記試験を実施。実技試験60%、筆記試験40%の合計100%中の60%以上の得点で合格とする。
教科書		

No.

7

科目コード

2023703

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	1級整備士を目指す学生にとっては、専門の技術や知識を身につけることはもちろんであるが、社会人として備えるべきマナーを学生時代に習得することを求められている。 この授業では、 ①挨拶や言葉遣いは社会人レベルの実力を付けること。 ②就職活動において必要とされる履歴書や作文の作成を通じてビジネスマンとして必要な実務的な実力を身につけること。 ③就職適正試験レベルの問題を解答できる力を身につけ、常識力を高めること。 ④業界の技術動向を知り、問題や課題を発見できる力を身につけること。 を目的とする。
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	2	
教科名	サービス実習	
科目名	自動車ビジネス実務Ⅱ	
単位	0	
履修時間	16	
回数	8	
必修・選択	必修	
省庁分類	14. サービス実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	出席状況とレポート点、筆記試験の成績をを持って評価する。出席率 100% 50点、以降 1欠席ごとに5点減点、0出席は0点、レポートは30点満点。筆記試験は20点満点。
教科書	就職活動ガイドブック	

No.	1	科目コード	1023003
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	現代社会はグローバル化が促進され、特に自動車業界では海外での日本車販売拠点も増えており、優秀な整備技術者が求められています。当科目ではこうした海外での機会や国内でも諸外国の人々との交流に際して堂々と対処できる力をつける事を目的とします。 部品や装置の正しい記述や発音、簡単な動詞の引用方法など自動車技術者ならではの会話に必要な英語力を身につける事で将来の活躍範囲が広がります。 目標 ①自動車部品の英語での表現ができる ②自動車部品の英語での表現を聞き取ることができる ③簡単な整備作業指示が英語でできる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車概論		
科目名	グローバル・コミュニケーションⅥ		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	12.自動車概論		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験１００点満点中、６０点以上を合格とする。	
教科書	自動車整備士の英語（自動車公論社）		

No.	2	科目コード	1023103
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	前期でおこなったデータベースの基本学習をもとに、複数の表を連携させるリレーショナルデータベースについての学習をMicrosoft Accessを用いて行う。データベース構築のために必要な基礎知識をPCの実習を通じて体感し、自身の基礎能力として獲得する。 目標 ①MSアクセスの基本操作ができる ②アクセスでデータベースが作成できる ③作成したデータベースの活用ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車工学		
科目名	情報リテラシ応用Ⅲ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	01.自動車工学		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験１００点満点中、６０点以上を合格とする。	
教科書			

No.	3	科目コード	2022403
系	自動車系	シラバス（概要） 教科書 第二章 高度整備技術 電源回路の構造・機能・点検 およびセンサの構造・機能・点検について理解する。 目標 ①各種センサの構造が理解できる ②各種センサの点検ができる ③各種センサの故障診断ができる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	エンジン電子制御装置整備Ⅱ		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験１００点満点中、６０点以上を合格とする。	
教科書	エンジン電子制御装置		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	4	科目コード	2022503
系	自動車系	シラバス（概要） ・EPS「電動式パワー ステアリング」の基本構造（機械的な構造、電気的な構造）を理解することにより、車速、エンジン回転速度、ステアリング転舵と路面反力をセンサが検出しECUへ入力、ECUはアクチュエータであるアシスト モータを駆動制御する電子制御装置それぞれの系統別の点検方法及び高度故障診断知識について理解し、国家一級自動車整備士学科試験に対応できる知識を修得する。 目標 ①電動パワーステアリングの構造が理解できる ②電動パワーステアリングの点検ができる ③電動パワーステアリングの故障診断ができる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	シャシ電子制御装置整備Ⅱ		
単位	1		
履修時間	36		
回数	18		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者		実技試験６０点、履修判定筆記試験４０点、合計１００点満点中６０点以上を合格とする。	
教科書	シャシ電子制御装置		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	5	科目コード	2022603
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	エンジンやエンジン制御、制駆動系制御、空調や走行安定制御、衝突時の乗員保護など多くの分野において、電子制御技術が使用されており、車両整備においても、電子制御に関する作業が増して来ている。電子制御装置を正しく整備するためには、各装置の制御内容、構成部位の構造、と作動原理を正しく理解することが不可欠である。当科目では、現在販売されているABS・TCSおよびVSCSなどの車両安定制御装置、およびSRSエアバッグ・プリテンションベルト等の乗員保護装置に関する、制御内容や原理・構造および点検・整備・廃棄方法などを修得する。 目標 ①車両安全装置（シートベルト、エアバッグ等）の構造を理解する ②ABS、TRC、VSCの各装置の作動を理解する ③これらの点検と故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	計測作業		
科目名	自動車の新技術Ⅱ		
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	07. 計測作業	評価方法	
授業形態	実習	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	自動車の新技術		

No.	6	科目コード	2022703
系	2022年度	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	1級自動車整備士は最新の故障診断器（スキャンツール）を使いこなして各種故障診断を行う技術を修得しますが、海外に目を向けたとき、必ずしも設備が整った環境で整備を行えるとは限りません。この科目では入学してからこれまでに修得した整備技術を元に、故障診断器（スキャンツール）等がない状況でも整備を可能にするような応用技術を身につけます。基本工具と簡易的なテストのみで整備を行う方法を身につける事で「考える力」を養い、機器やマニュアルに頼らない本当の意味での整備技術を身につける事ができます。 この期では電子制御式エンジンのシミュレータ制作を通して、応用整備技術を身につけます。 目標 ①ベンチエンジンが始動できるよう配線ができる ②図面、配線図から設計ができる ③問題点を自分で判断できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	グローバル・メンテナンス技術Ⅱ		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08. 自動車整備作業		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	期末に履修判定筆記試験を実施。実技試験60％、筆記試験40％の合計100％中の60％以上の得点で合格とする。	
教科書			
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	7	科目コード	2023003
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	メカトロニクス基礎、メカトロニクス応用で得た知識を基に、自走式ライトレースロボットの製作とプログラミングを学習し、マイクロマウス競技会に参画してその完成度を確認する。さらに、結果に基づき問題点の抽出を行い次年度への申し送りを行う。 目標 ①PDCAサイクルを使用した目標達成プロセスが構築できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	自動車整備作業		
科目名	応用メカⅡ		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	選択		
省庁分類	08. 自動車整備作業	評価方法	
授業形態	実習	出席状況と、提出物によって評価する。出席率 100% 50点、提出物は50点満点。合計100点を履修成績とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	オリジナルサブテキスト		

No.	8	科目コード	2023803
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	一度きりの人生を突くあるものにしたいというのは、みんなの願いです。就職と言う人生の大きな岐路を迎えるにあたり、希望にそった会社に就職し豊かな生活を満喫したいと考えているのではないのでしょうか。 就職の大きな目的の一つは、安定した収入を得ることにありますが、それだけで仕事を選ぶ人は少ないと思います。専門学校でその道の分野のプロになるため勉強をし、知識や技術を蓄えてきた皆さんが社会人として出発するためには、いくつもの関門をくぐらなければなりません。その関門を突破するために1年を通してしっかりした考えのもとに目標を設定し、突き進む道しるべとしてこの講座が設定されています。就職内定をつかみ取るだけでなく、人間として成長し社会人として活躍できるスキルを身につける事を目的としています。人間として成長するために必要な様々な知識と共に、時には実践で試すことも必要でしょう。このプログラムは、あなたを人間として成長させる一助となることでしょう。 目標 ①就職目標を高める事ができる ②将来の自分がイメージできる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	3		
教科名	サービス実習		
科目名	自動車ビジネス実務Ⅲ		
単位	0		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	14. サービス実習	評価方法	
授業形態	実習	出席点50点（上限）、提出物等 総合点100％の内60％以上で合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	ソーシャル検定テキスト		

No.	1	科目コード	1022303
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	1級整備士として必要な整備法規と検査法規について理解する。法令を覚えるだけでなくその運用をできる実務的な知識を身につける。特に不正改造や、保安基準違反にたいする啓蒙や指導を行えるよう事例による法解釈などにも踏み込んで学習する。 目標 ①点検、検査に関する法規を理解する ②検査基準の判断ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	検査法規		
科目名	自動車関係法規Ⅰ（検査法規）		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	05. 検査法規		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	2	科目コード	1022503
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	現在の車には、電子制御装置が数多く使用されており、整備作業の重要な部分を占めるようになっている。この電子制御装置を正しく整備するには、各装置を正しく・深く理解することが不可欠である。1期・2期・3期で行なってきた制御システムに関する知識をさらに深める為、現在販売されている最新のハイブリッド車・CNG自動車を通して、原理・制御の概要などを実車を通して理解し、整備士として必要な、さらなる知識の習得をはかる。 目標 ①ハイブリッド車の整備ができる ②電気自動車の構造が理解できる ③CNG自動車の構造が理解できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車整備		
科目名	自動車の新技術Ⅰ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	02. 自動車整備		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	実技試験60点、履修判定筆記試験40点、合計100点満点中60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	3	科目コード	1022903
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	自動車整備分野の職業教育訓練指導員試験の資格合格を目指すとともに、教育実習における教育計画の基礎を学ぶ。内容は、教科書「指導の理論と実際」に準じて、○職業訓練原理 ○教科指導方法○安全衛生○訓練生の心理○生活指導○関係法令により構成する。 目標 ①職業訓練のカリキュラムを作成できる ②職業訓練時の注意事項を理解する ③職業訓練に関わる保冷を遵守できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車整備		
科目名	職業訓練の理論と実際		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	02. 自動車整備		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	4	科目コード	1023303
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	現代社会はグローバル化が促進され、特に自動車業界では海外での日本車販売拠点も増えており、優秀な整備技術者が求められています。当科目ではこうした海外での機会や国内でも諸外国の人々との交流に際して堂々と対処できる力をつける事を目的とします。 部品や装置の正しい記述や発音、簡単な動詞の引用方法など自動車技術者ならではの会話に必要な英語力を身につける事で将来の活躍範囲が広がります。 目標 ①自動車部品の英語での表現ができる ②自動車部品の英語での表現を聞き取ることができる ③簡単な整備作業指示が英語でできる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車概論		
科目名	グローバル・コミュニケーションⅦ		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	12. 自動車概論		
授業形態	講義	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書	自動車整備士の英語(自動車公論社)		

No.	5	科目コード	2022803
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	教科書 第二章 高度整備技術 アクチュエータの構造・機能・点検について理解する。 アクチュエータはコンピュータの手足であり、各センサーからの信号を元に演算した結果の出力先で、不具合時には「動かない」又は「誤作動」となる。ここではアクチュエータの構造を理解し、信号系(センサー系)の故障とアクチュエータ系の故障のどちらなのかを判断できることが重要となる。 目標 ①アクチュエータの構造・作動が理解できる ②アクチュエータの点検ができる ③アクチュエータの故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	エンジン電子制御装置整備Ⅲ		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	6	科目コード	2022903
系	自動車系	シラバス（概要） ABS「アンチロック ブレーキ システム」の油圧回路の機械的構造、電気回路の基本構造、電子制御システム回路、システム制御、各種センサからの信号検出、出力制御回路における各アクチュエータの制御を理解することにより、高度整備技術及び高度故障診断技術知識を理解し、国家一級自動車整備士学科試験に対応できる知識を修得する。 目標 ①ABSの構造及び作動が理解できる ②ABSの作動点検ができる ③ABSの故障診断ができる	
科	482. 品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	シャシ電子制御装置整備Ⅲ		
単位	1		
履修時間	36		
回数	18		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書	シャシ電子制御装置		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	7	科目コード	2023103
系	自動車系	シラバス（概要） 1級自動車整備士は最新の故障診断器（スキャンツール）を使いこなして各種故障診断を行う技術を修得しますが、海外に目を向けたとき、必ずしも設備が整った環境で整備を行えるとは限りません。この科目では入学してからこれまでに修得した整備技術を元に、故障診断器（スキャンツール）等がない状況でも整備を可能にするような応用技術を身につけます。基本工具と簡易的なテストのみで整備を行う方法を身につける事で「考える力」を養い、機器やマニュアルに頼らない本当の意味での整備技術を身につける事ができます。 この期では電子制御式エンジンのシミュレータ製作を完成させ、整備技術のさらなる向上を目指します。 目標 ①ベンチエンジンが始動できるよう配線ができる ②図面、配線図から設計ができる ③問題点を自分で判断できる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	自動車整備作業		
科目名	グローバル・メンテナンス技術Ⅲ		
単位	1		
履修時間	40		
回数	20		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			

【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。	
---	--

No.	8	科目コード	2023903
系	自動車系	シラバス（概要） 一度きりの人生を笑みあるものにしたいというのは、みんなの願いです。就職と言う人生の大きな岐路を迎えるにあたり、希望にそった会社に就職し豊かな生活を満喫したいと考えているのではないのでしょうか。 就職の大きな目的の一つは、安定した収入を得ることにありますが、それだけで仕事を選ぶ人は少ないと思います。専門学校でその道の分野のプロになるため勉強をし、知識や技術を蓄えてきた皆さんが社会人として出発するためには、いくつもの関門をくぐらなければなりません。その関門を突破するために1年を通してしっかりした考えのもとに目標を設定し、突き進む道しるべとしてこの講座が設定されています。就職内定をつかみ取るだけでなく、人間として成長し社会人として活躍できるスキルを身につける事を目的としています。人間として成長するにに必要な様々な知識と共に、時には実践で試すことも必要でしょう。このプログラムは、あなたを人間として成長させる一助となることでしょう。 目標 ①就職目標を高める事ができる ②将来の自分がイメージできる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	4		
教科名	サービス実習		
科目名	自動車ビジネス実務Ⅳ		
単位	0		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	14. サービス実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書	就職活動ガイドブック		

評価方法	
出席点50点（上限）、提出物等　総合点１００％の内６０％以上で合格とする。	

No.	1	科目コード	1022803
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	1級整備士学科試験合格のため必要となる「車両法」「保安基準」について1級整備し試験レベルの問いに答えられる力を身に付ける。法令出題範囲は2級と変わらないが、内容としては、2級の単純な問いに比べ、整備実務の中での判断が必要となる場面を想定した問題が多く出題されている。この科目では多方面から法令を学習し法令を熟知することを目的とする。 目標 ①2級問題を解説できる ②法令改正（通達）部分を理解する。 ③実務レベル判断を問う出題問題とその傾向を分析し、法令問題の演習問題（4択）を自分で作成できる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	整備法規		
科目名	自動車関係法規Ⅱ（整備法規）		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	04.整備法規		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	2	科目コード	1023203
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	Microsoft Power Point を活用したプレゼンテーション技術を身につける。1. プレゼンテーションに必要な「外見・態度・話しかた・内容」に関する知識について学ぶ。プレゼンテーションの重要なツールであるPower Pointの活用のしかたについて学ぶ。3. 実際にプレゼンテーションの練習をおこなうことによって、学んだ知識を活用できるスキルを身につける。 目標 ①プレゼンテーションが作成できる ②MSプレゼンテーションの基本的捜査ができる ③自己の主張を発表し、対象者に理解してもらう事ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車整備		
科目名	プレゼンテーション技法Ⅱ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	02.自動車整備		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	3	科目コード	1023403
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482.品川1級自動車整備科	工場の作業中に発生する災害のあらましと、その防止策について事例を基に理解する。 1級自動車整備士学科試験に出題される「安全・管理」の知識を学び、出題に対して答えられる実力を付けることはもちろんのこと、将来自動車業界の仕事に就き、その職場において安全面、管理面について良否の判断や改善の提案ができるレベルを目標とする。 また、授業を通じて2期から始まる「インターンシップ」において、安全を重視した研修が実施できるよう意識付けを行う。 目標 ①安全管理に対する方法・事例を理解する ②安全管理に対する提案ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車整備		
科目名	安全管理		
単位	4		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	02.自動車整備		
授業形態	講義		
作成者			
教科書	総合診断・環境保全・安全管理		
		評価方法	
		履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	

No.	4	科目コード	2023203
系	自動車系	シラバス（概要） 教科書 第2章 高度整備技術 通信信号 エンジンECUの制御について理解し、第1章・第2章全体の再確認を行う。 電子制御エンジンではセンサーとアクチュエータが正常であるときECUの故障を疑う必要があり、そのECUの中身を深く理解することで故障診断ができるようになる。この科目ではECUの回路と制御について深く学びます。 目標 ①ECUの制御について理解する ②ECUの回路について理解する ③ECU不具合時の故障診断ができる	
科	482.品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車整備作業		
科目名	エンジン電子制御装置整備Ⅳ		
単位	1		
履修時間	42		
回数	21		
必修・選択	必修		
省庁分類	08.自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		実技試験60点、履修判定筆記試験40点、合計100点満点中60点以上を合格とする。	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	5	科目コード	2023303
系	2022年度	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	オートエアコンは、車室温度、外気温度、日射量等の環境変化に対し、常に車内温度を好みの温度に保つように吹出風温度、吹出風量、吹出口、吸込口を人に代って人が最も快適であるように自動制御したり、選択したりするシステムです。 ・オートエアコンの電子制御システムにおける制御内容、仕組みを理解し、センサが検出した電気信号の入力回路やアクチュエータの駆動制御回路を理解することにより、システムの診断知識と診断技術、国家1級整備士学科試験に対応する知識を修得する。 目標 ①オートエアコンのシステムを理解する ②オートエアコンの制御方法を理解する ③オートエアコン不具合時の故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車整備作業		
科目名	シャシ電子制御装置整備Ⅳ		
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	08. 自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者		評価方法	
教科書	シャシ電子制御装置	実技試験60点、履修判定筆記試験40点、合計100点満点中60点以上を合格とする。	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

No.	6	科目コード	2023403
系	2022年度	シラバス（概要） 現在の車には、電子制御装置が数多く使用されており、整備作業の重要な部分を占めるようになっていく。この電子制御装置を正しく整備するには、各装置を正しく・深く理解することが不可欠である。制御システムに関する知識をさらに深める為、現在販売されている最新の、筒内噴射式ガソリン・エンジンの構造・機能を理解し、整備士として必要な、さらなる知識の習得をはかる。 目標 ①CVTの構造と作動を理解する ②コモンレール式エンジンの構造と作動を理解する ③上記システムの故障診断ができる	
科	482. 品川1級自動車整備科		
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車検査作業		
科目名	自動車の新技術Ⅲ		
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	09. 自動車検査作業		
授業形態	実習	評価方法 履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	自動車新技術		
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。			

		科目コード
系	自動車系	シラバス（概要） シャシは自動車を走行させるのに必要な装置が組合されたもので、動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置などに加えて、自動車を安全且つ容易にするための計器・灯火・方向指示器・警報器などがこれにあたる。走行性能＝シャシ性能であり、自動車の最も基本的な要素である。製造・販売された自動車のシャシ性能が設計通りに性能を発揮しているか？を判断して、必要に応じた修理をすることは非常に重要なことである。本科目では、シャシ性能や不具合を的確に評価するための有力な装置であるシャシ・ダイナモメータと、シャシ部位に広く関係する振動・騒音について勉強する。 科目の到達目標 ①シャシの振動・騒音を理解すると共に、評価と要因解析のツールであるFFTアナライザを扱える ②シャシ・ダイナモの役割・構造・使用方法を理解すると共に、実際のCDを用いて測定できる
科	182. 中野1級自動車整備科	
年度	2025年度	
学年	3年次	
期	5	
教科名	計測作業	
科目名	メカトロニクス応用	
単位	1	
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	07. 計測作業	
授業形態	実習	評価方法 実技試験６０点、履修判定筆記試験４０点、合計１００点満点中６０点以上を合格とする。
作成者	吉倉 登喜夫	
教科書	日本自動車整備振興会関連教科書	
【授業の特徴と教員紹介】担当教員は自動車の整備、開発（設計・実験）の何れかの職に従事した経験があり、その実務に基づいた授業を展開する。		

← 削除

← 追記

No.	7	科目コード	2023503
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	エンジンやエンジン制御、制駆動系制御、空調や走行安定制御、衝突時の乗員保護など多くの分野において、電子制御技術が使用されており、車両整備においても、電子制御に関した作業が増して来ている。電子制御装置を正しく整備するためには、各装置の制御内容、構成部位の構造、と作動原理を正しく理解することが不可欠である。当科目では、現在販売されているABS・TCSおよびVSCSなどの車両安定制御装置、およびSRSエアバッグ・プリテンシントベルト等の乗員保護装置に関し、実際の走行体験を通して理解する。 目標 ①ABS、TRC、VSCの各装置の作動を体験し、理解する ②ABS、TRC、VSC各装置不具合時の状況を再現し、故障診断ができるようになる	
年度	2025年度		
学年	3年次		
期	5		
教科名	自動車整備作業		
科目名	新技術走行実験		
単位	0		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	08. 自動車整備作業		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆	出席状況と、提出物によって評価する。出席率 100% 50点、提出物は50点満点。合計100点を履修成績とする。	
教科書		評価方法	

No.	1	科目コード	1031704
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	本講座では、社会人として必要な基礎知識や一般常識に加え、ビジネスの体系に沿った基本スキルを、演習を交えて実践的に習得します。 ・顧客意識など仕事に対する基本姿勢 ・ビジネスマナーなどのコミュニケーションの基礎 ・ビジネス常識、文書作成などの基本スキル ・ビジネスに必要なコンプライアンスの知識 これらの事を学び、修得することで即戦力として活躍できること、また、インターンシップでの学習にも役立つ内容となります。 目標 ①ビジネスマナーを理解する ②ビジネスの場面で実際に使用できる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	1		
教科名	サービス学科		
科目名	ビジネス・アビリティⅠ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	13. サービス学科	評価方法	
授業形態	講義	履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	ビジネス能力検定3級テキスト		

No.	2	科目コード	2031804
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	学校で学んだ理論と技術を企業において実践し習熟度を確かめ、将来、働くことになる職場を体験して職業人としての心構えと意識を持たせる。また、さらに企業実習を通して、実務面だけではなく、社会人（職業人）としての自己の果たすべき役割や責任を体感する。1級自動車整備科では、学校での専門教科の修得をより実践的なものとし、且つ充実したものとするを目的としてインターンシップを実施する。 目標 ①インターンシップの心構えを理解する ②インターンシップ受け入れ先の業務を理解する ③報告会で発表できるようにする	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	1		
教科名	体験実習		
科目名	インターンシップ導入		
単位	0		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	10. 体験実習	評価方法	
授業形態	実習	出席50%、レポート提出（A B C D E）にて50%の合計100%中60%以上で合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書			

No.	3	科目コード	2031904
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	・工具、機器、マニュアル等、整備作業における各種ツールを最大限に生かし、標準時間に基づく定期点検作業についてポイントとなるテクニックを学び、効率的かつ安全に作業が実践できるように修得する。 ※自動車の点検整備の基本となる12ヶ月定期点検整備を確実に効率のよい整備が出来ることを目指し、習熟訓練を実施する。 目標 ①12ヶ月定期点検整備項目を理解する ②12ヶ月定期点検整備を一人で行う事ができる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	1		
教科名	評価実習		
科目名	定期点検整備の実践テクニック		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習	評価方法	
授業形態	実習	実技試験 60点、筆記試験40点 合計 100点満点で60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書			

No.	4	科目コード	2032004
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	サービス産業としての自動車整備事業の於ける環境を理解し、サービス役務の実際を知る。 お客様対応の基礎知識を確り理解し、基本的小お客様対応手法を学ぶことにより、問診、入庫管理、完成後の調子伺いまでをロールプレイングを中心に学ぶ。このことによりお客様対応能力を修得し、一級自動車整備士口述試験に対応できる“総合診断”の知識を修得し、また二期から始まる“インターンシップ”に於いてお客様対応の実務を実践できる能力を修得することを目標とする。 目標 ①お客様に問診ができる ②お客様に整備内容の説明ができる ③お客様にフンポイントアドバイスができる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	1		
教科名	評価実習		
科目名	顧客対応実務		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習	評価方法	
授業形態	実習	履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。	
作成者	松村 道隆		
教科書	総合診断・環境保全・安全管理		

No.	1	科目コード	2032104
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	学校で学んだ理論と技術を企業において実践し習熟度を確かめ、将来、働くことになる職場を体験して職業人としての心構えと意識を持たせる。また、さらに企業実習を通して、実務面だけではなく、社会人（職業人）としての自己の果たすべき役割や責任を体感する。1級自動車整備科では、学校での専門教科の修得をより実践的なものとし、且つ充実したものとするを目的としてインターンシップを実施する。 ①組織内でのサービス部門の役割と仕事の流れについて体験的に理解する。 ②メカニックとしての整備作業およびその周辺業務について体験的に理解する。 ③顧客対応の実務とCS活動について体験的に理解する。 ④その他、企業実習受け入れ会社での研修事項 ⑤学生自身が独自に設定し、科及び受け入れ企業が承認したテーマについて体験的に理解する。 ※実施時期 6月中旬から8月上旬までのうち約5週間(最低必要日数 正味28日間、計画日としては30日間)	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	2		
教科名	体験実習		
科目名	企業インターンシップⅠ		
単位	4		
履修時間	120		
回数	60		
必修・選択	必修		
省庁分類	10. 体験実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆	評価方法	
教科書		受け入れ協力企業の指導責任者による評価及び報告書評価により判断し、履修を決める。	

No.	2	科目コード	2032204
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	学校で学んだ理論と技術を企業において実践し習熟度を確かめ、将来、働くことになる職場を体験して職業人としての心構えと意識を持たせる。また、さらに企業実習を通して、実務面だけではなく、社会人（職業人）としての自己の果たすべき役割や責任を体感する。1級自動車整備科では、学校での専門教科の修得をより実践的なものとし、且つ充実したものとするを目的としてインターンシップを実施する。 ①組織内でのサービス部門の役割と仕事の流れについて体験的に理解する。 ②メカニックとしての整備作業およびその周辺業務について体験的に理解する。 ③顧客対応の実務とCS活動について体験的に理解する。 ④その他、企業実習受け入れ会社での研修事項 ⑤学生自身が独自に設定し、科及び受け入れ企業が承認したテーマについて体験的に理解する。 ※実施時期 6月中旬から8月上旬までのうち約5週間(最低必要日数 正味28日間、計画日としては30日間)	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	2		
教科名	体験実習		
科目名	企業インターンシップⅡ		
単位	4		
履修時間	120		
回数	60		
必修・選択	必修		
省庁分類	10. 体験実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆	評価方法	
教科書		受け入れ協力企業の指導責任者による評価及び報告書評価により判断し、履修を決める。	

No.	1	科目コード	1031804
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	ビジネス能力検定（日検）は、社会人に必要な仕事の能力を客観的に評価する検定試験です。2 級は、2 年次 1 期に学習した 3 級を発展させた内容で、入社 2、3 年目程度の職業人としての仕事の実践力を評価します。当講座では、ビジネス能力検定・2 級の内容に沿って顧客対応などの実務的なビジネスコミュニケーション、論理的思考と効率的な仕事の進め方、実務に必要なビジネス常識、スキルについて学び、ビジネス能力検定・2 級レベルを目指します。 目標 ①ビジネスマナーを理解する ②ビジネスマナーを実際に使用できる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	3		
教科名	サービス学科		
科目名	ビジネス・アビリティⅡ		
単位	2		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	13. サービス学科		
授業形態	講義		
作成者	松村 道隆		
教科書	ビジネス能力検定 2 級テキスト＋問題集		
		評価方法	
		履修判定筆記試験 1 0 0 点満点中、6 0 点以上を合格とする。	

No.	2	科目コード	2032304
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	現在の車には、電子制御装置が数多く使用されており、整備作業の重要な部分を占めるようになっている。この電子制御装置を正しく整備するには、各装置を正しく・深く理解することが不可欠である。制御システムに関する知識をさらに深める為、現在販売されている最新の、筒内噴射式ガソリン・エンジン、コモンレールの構造・機能を理解し、整備士として必要な、さらなる知識の習得をはかる。 目標 ①エンジン電子制御装置の故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	3		
教科名	評価実習		
科目名	エンジン電子制御故障診断		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		履修判定筆記試験 1 0 0 点満点中、6 0 点以上を合格とする。	

No.	3	科目コード	2032404
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	・自動車の不具合において、振動・騒音は大きな割合を占める内容である。 原因として振動・騒音は、多くの部品や部位が関係する現象で、的確な整備を実施するためには、理論的な理解の基に不具合部位を絞り込む必要がある。 ・当科目においては ①振動・騒音の理論 ②振動・騒音の低減・防止技術 ③現実の自動車各部の低減対応を習得する。 ・国家 1 級整備士学科試験に対応できる知識を習得する。 目標 ①シャシ電子制御装置の故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	3		
教科名	評価実習		
科目名	シャシ電子制御故障診断		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		履修判定筆記試験 1 0 0 点満点中、6 0 点以上を合格とする。	

No.	4	科目コード	2032504
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	1級自動車整備士に必要な新技術として、ハイブリッド車、CNG燃料自動車、筒内噴射式ガソリンエンジン、コモンレール式高圧燃料噴射システム、CVT、車両安定制御装置、SRSエアバッグについて構造・制御内容、整備方法、故障診断を理解する事を目的とする。 目標 ①新技術の構造・制御を理解する ②新技術の点検ができる ③新技術の故障診断ができる	
年度	2025年度		
学年	4年次		
期	3		
教科名	評価実習		
科目名	自動車新技術総合整備		
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習		
作成者	松村 道隆		
教科書			
		評価方法	
		履修判定筆記試験 1 0 0 点満点中、6 0 点以上を合格とする。	

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482. 品川1級自動車整備科	国家資格1級自動車整備士筆記試験合格を目的として、試験出題のレベルを知ると共に、重要用語の整理、解説・解答演習や4択問題作成演習を通して教科書を熟読し、苦手部分の分析とそれを克服する対策を実施する。演習問題については模試70%以上を目指す。 この期では、比較の出題内容が、教科書の内容に直結している分野として●環境・安全管理分野で実施する。 ①「環境・安全管理」分野について、教科書内容の要点を確認(復習)をする。 ②教科書内容を熟読し、重要用語、項目の整理を行い、解説ができる力を養う。 ③4択演習問題について解答・解説を実施し、出題の範囲や、角度が変わった場合にでも、正しく解答できる力を養う。 ④4択問題を実際に作成することにより、問題のレベル感や出題の意図を理解できるようにする。
年度	2025年度	
学年	4年次	
期	3	
教科名	評価実習	
科目名	環境安全管理総合整備	
単位	1	
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	11. 評価実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	評価方法
教科書		履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。

No. 1

科目コード 2032704

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482.品川1級自動車整備科	現在の車には、電子制御装置が数多く使用されており、整備作業の重要な部分を占めるようになっている。この電子制御装置を正しく整備するには、各装置を正しく・深く理解することが不可欠である。制御システムに関する知識をさらに深める為、現在販売されている最新の、筒内噴射式ガソリン・エンジン、コモンレールの構造・機能を理解し、整備士として必要な、さらなる知識の習得をはかる。 目標 ①エンジン電子制御装置の故障診断ができる
年度	2025年度	
学年	4年次	
期	4	
教科名	評価実習	
科目名	エンジン電子制御総合整備	
単位	2	
履修時間	60	
回数	30	
必修・選択	必修	
省庁分類	11. 評価実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書		
		評価方法
		履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。

No. 2

科目コード 2032804

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482.品川1級自動車整備科	・自動車の不具合において、振動・騒音は大きな割合を占める内容である。 原因として振動・騒音は、多くの部品や部位が関係する現象で、的確な整備を実施するためには、理論的な理解の基に不具合部位を絞り込む必要がある。 ・当科目においては ①振動・騒音の理論 ②振動・騒音の低減・防止技術 ③現実の自動車各部の低減対応を習得する。 ・国家1級整備士学科試験に対応できる知識を習得する。 目標 ①ジャン電子制御装置の故障診断ができる
年度	2025年度	
学年	4年次	
期	4	
教科名	評価実習	
科目名	ジャン電子制御総合整備	
単位	2	
履修時間	60	
回数	30	
必修・選択	必修	
省庁分類	11. 評価実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書		
		評価方法
		履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。

No. 3

科目コード 2032904

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482.品川1級自動車整備科	サービス産業としての自動車整備事業の於ける環境を理解し、サービス役務の実際を知る。 お客様対応の基礎知識を確り理解し、基本的なお客様対応手法を学ぶことにより、問診、入庫管理、完成後の調子伺いまでをロールプレイングを中心に学ぶ。このことによりお客様対応能力を修得し、一級自動車整備士口述試験に対応できる“総合診断”の知識を修得し、お客様対応の実務を実践できる能力を修得することを目標とする。 目標 ①お客様に問診ができる ②お客様に整備内容の説明ができる ③お客様にワンポイントアドバイスができる
年度	2025年度	
学年	4年次	
期	4	
教科名	評価実習	
科目名	問診・整備説明実務	
単位	2	
履修時間	60	
回数	30	
必修・選択	必修	
省庁分類	11. 評価実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書		
		評価方法
		履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。

No. 4

科目コード 2033104

系	自動車系	シラバス（概要）
科	482.品川1級自動車整備科	自動車の基本法である道路運送車両法、同施行規則、自動車点検基準、優良自動車整備事業者認定規則、指定自動車整備事業規則等の関係法令について主要な要点について理解をします。なお、最低限、二級自動車整備士試験に出題される条項は完全に理解するとともに、職場において整備主任者、自動車検査員になれるための基礎知識を身につけます。 目標 ①自動車に関する法令を熟知する ②法令遵守の提案ができる
年度	2025年度	
学年	4年次	
期	4	
教科名	評価実習	
科目名	自動車法規総合	
単位	1	
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	11. 評価実習	
授業形態	実習	
作成者	松村 道隆	
教科書		
		評価方法
		履修判定筆記試験 100点満点中、60点以上を合格とする。

No.	1	科目コード	2033004
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	顧客対応に必要な応酬話法を習得する。問診、整備計画、整備内容説明等の各項目に対して応対ができる力を身につける。	
年度	2025年度	目標 ① 問診の基本5項目を確実に聞き取ることができる。 ② 故障箇所を推定し、その絞り込みのために必要な質問ができる。 ③ わかりやすい言葉で整備内容の説明ができる。 ④ 点検結果からのアドバイスをすることができる。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	評価実習		
科目名	自動車総合診断整備		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	2	科目コード	2033204
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	高難度故障診断に対応できる力を身に付ける。センサ、コントロールユニット、アクチュエータの入力信号を適正に判断し、良否判定できる実力を身に付ける。また、エンジン故障探求に関する1級整備士資格問題の研究を行う。	
年度	2025年度	目標 ① 異常検知の範囲が理解できる。 ② センサ、アクチュエータの作動がわかる。 ③ ECUの制御内容がわかる。 ④ 電圧分布より異常部位が推定できる。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	評価実習		
科目名	自動車電子制御装置総合整備Ⅰ		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	3	科目コード	2033304
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	高難度故障診断に対応できる力を身に付ける。センサ、コントロールユニット、アクチュエータの入力信号を適正に判断し、良否判定できる実力を身に付ける。また、エンジン故障探求に関する1級整備士資格問題の研究を行う。	
年度	2025年度	目標 ① 異常検知の範囲が理解できる。 ② センサ、アクチュエータの作動がわかる。 ③ ECUの制御内容がわかる。 ④ 電圧分布より異常部位が推定できる。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	評価実習		
科目名	自動車電子制御装置総合整備Ⅱ		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			

No.	4	科目コード	2033404
系	自動車系	シラバス（概要）	
科	482. 品川1級自動車整備科	高難度故障診断に対応できる力を身に付ける。センサ、コントロールユニット、アクチュエータの入力信号を適正に判断し、良否判定できる実力を身に付ける。また、シャシ故障探求に関する1級整備士資格問題の研究を行う。	
年度	2025年度	目標 ① 異常検知の範囲が理解できる。 ② フェイル・セーフ項目がわかる。 ③ ECUの制御内容がわかる。 ④ 電圧分布より異常部位が推定できる。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	評価実習		
科目名	自動車電子制御装置総合整備Ⅲ		
単位	2		
履修時間	60		
回数	30		
必修・選択	必修		
省庁分類	11. 評価実習		
授業形態	実習	評価方法	
作成者	松村 道隆	履修判定筆記試験100点満点中、60点以上を合格とする。	
教科書			